明治四十四年三月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百五十六號

明治二十一年三月二十六日内務省許可（廿日發行）

婦人衞生雜誌

第二百五拾六號目次

私立

大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆とも に希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの〻如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尙之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

稟告

來ル三月ノ例會ハ過般役員會ノ決議ニ依リ休會致スコト、相成候間此段御了承被下度候也

二月

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子
幹事 (いろは順) 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田德子
同 高木鉄子
同 山本多穗子
同 松平芳子
同 三浦敬子
同 石川貞子
評議員 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 土肥多越子
同 緒方悅子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
評議員 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 中濱芳子
同 山口貞子
同 子爵夫人 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別贊成員 (いろは順)

醫學博士 入澤達吉君
理學博士 石川千代松君
醫學士 石原久君
醫學士 石原喜久太郎君
理學博士 飯島魁君
ドクトル 飯盛挺造君
醫學博士 伊藤隼三君
ドクトル 伊澤信平君
醫學博士 伊東祐彦君
色川圀士君
岩井禎三君
藥學博士 石津利作君
醫學士 磐瀨雄一君
長谷川泰君
法學博士 鳩山和夫君
萩原彌四郎君
醫學博士 林春雄君
原胤昭君
醫學士 橋本左武郎君
醫學博士 濱田玄達君
男爵 濱尾新君
醫學博士 芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル 西山信光君
本田增次郎君
醫學士 鳥居春洋君
醫學博士 土肥慶藏君
醫學博士 遠山椿吉君
醫學博士 大澤謙二君
醫學士 大野豐太君
醫學士 大西秀治君
子爵 小笠原長生君
ドクトル 小此木信六郎君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學博士 岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士 緒方正規君
醫學博士 大澤岳太郎君
醫學士 渡邊房吉君
醫學博士 加藤照麿君
文學博士 法學博士 男爵 加藤弘之君
醫學士 河野衛君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 賀古鶴所君
醫學士 塚田[illegible]一郎君
醫學士 唐澤光德君
醫學士 甲野棐君
醫學士 米山彦郎君
横井忠國君
醫學博士 高橋順太郎君
男爵 高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士 高田畊安君
ドクトル 高山紀齋君
藥學博士 田原良純君
醫學博士 田代義德君
醫學士 田村光顯君
醫學士 田村化三郎君
醫學士 竹中成憲君
藥學博士 丹波敬三君
法學博士 高木豐三君
醫博、男爵 高木兼寬君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 土田卯三郎君
男爵 辻新次君
醫學博士 中濱東一郎君
醫學博士 長與稱吉君
藥學博士 長井長義君
男爵 南部實男君
醫學博士 能勢靜太君
醫學博士 久保猪之吉君
醫學博士 栗本東明君
醫學士 栗本庸勝君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 吳秀三君
醫學博士 山田鐵藏君
醫學博士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
ドクトル 山上兼輔君
ドクトル 松山陽太郎君
丸山長四郎君
ドクトル 富士川游君
布施正顯君
男爵 後藤新平君
醫學士 古川榮君
小高良造君
小西信八君
醫學士 寺田織尾君
醫學士 寺田豐作君
寺田勇吉君
醫學博士 朝倉文三君
子爵 秋元興朝君
足立寬君
ドクトル 朝山義六君
醫學士 淺田決君
醫學博士 佐藤達次郎君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學博士 榊順二郎君
醫學博士 榊保三郎君
醫學博士 櫻井恒次郎君
醫學博士 佐藤三吉君
齋藤清文君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 櫻井郁二郎君
ドクトル 佐藤運雄君
醫學士 佐藤德齋君
醫學士 澤崎寬制君
ドクトル 佐伯理一郎君
醫學博士 木下正中君
醫學博士 桐淵鏡次君
醫學博士 木村德衛君
醫學博士 北島多一君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學士 北村楠造君
醫學博士 北川乙治郎君
ドクトル 菊池循一君
醫學博士 三輪信太郎君
醫學博士 宮本叔君
宮本仲君
宮川保全君
理學博士 箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三浦謹之助君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三浦守治君
島田三郎君
ドクトル 志村誠麿君
醫學博士 島村俊一君
ドクトル 日高昂君
醫學博士 弘田長君
伯爵 土方久元君
醫學士 百瀬玄溪君
醫學士 森田正馬君
文學博士 醫學博士 森林太郎君
醫學士 澄川德君
ドクトル 須田卓爾君

婦人衛生雜誌第二百五十六號
（明治四十四年三月二十日發行）



國民教育と公衆衛生

ドクトル エルンスト、シェルツェ述

現代文明の完成には、衛生學の與つて力あるは申迄もないことでありますが、これは亦醫學、諸種の技術、政府及び團體の力に俟たなければならぬのであります。若し此等の力が、全國民の健康狀態を高めると云ふ共同の目的の爲に、眞に衛生的に醒めて努力したならば、必ず良成績を擧げ得るに相違ないのであります。今獨逸國に於て肺癆の防遏に勉めた結果に就いて見ましても、實に著しい效果を收めて居ります。即ち一千九百七年度の衛生局の記録に依つて見ますと、十年前には十萬人の住民に就いて百四十六人の肺結核死亡者を出して居りましたが、僅かに十年以内に、その死亡率は十萬人に對する三十二人と云ふ割合になりました、即ち約五分の一に減少したのであります。尙實扶的里で死亡する數も非常に減じまして、一千八百九十五年には、獨逸國中で七萬五千三百二十二人の小兒が死亡致しましたが、一千九百四年には、人口の非常に多くなつたにも拘らず僅かに一萬九千九十七人の死亡であります。

この衛生の進歩を計りますには、單に醫學が、その技術と豫防法を講ずるのみでは駄目である、これは寧ろ堅實なる國民教育に俟たなければならぬのであります。そうでないと、折角の努力も總て水泡に歸してしまうからであります。此事は今日の衛生學が起ります前に、已に彼の大教育家たるペスタロッチーも認めて居つた所でありまして、特にこの問題に就て書いた論文がありますが、それには、衛生の何

ものであるかも全く知らぬような人民の間に、一旦傳染病が起つた日には、眞に恐るべき勢を呈するであらう、又その無智なることが抑の原因たることが屢ゝあること云ふ意を示し、遂に次の如く極言して居ります。

『人若し愚にして困窮し、思慮なく且つ迷信を懐き、輕躁にして不潔ならば、彼が病に罹るは元よりその所にして、又疫癘流行時に當つて、その狀態の結果は、最も一般にして且つ最も確實に表はるゝとも、これ自業自得と謂ふべきのみ、惡疫勃發してその地の人民汎ねく亡滅しさるも、その最大原因は、正に傳染病の一を此の如き狀態に於て求むべきなり』

ペスタロッチーと共に、殊に政治家は、總て衞生的進步には、是非國民教育の緊要なことを認めましたが、ペスタロッチーの影響前に、この問題の特に重要なことを感じて居つたのはフリードリヒ大王で御坐いました。それで位に卽かるゝや直ちに治療術に注意を拂はれまして、單に外科學がその軍隊に效あることを思し召されて、始は極めて醫學の素養の不完全な軍醫を大に教育することに勉められたのみならず、更に一般人民の衞生に心を用ひられて、國民に衞生思想を普及することを屢ゝ命ぜられたのであります。彼の一千七百五十一年の四月二十日に產婆教育に關する勅令を發せられたのも卽ちこれでありまして、產婆の智識に乏しい爲に、往々母子共に生命を失ふような大害を來すことを憂ひられてのことであります。その勅諭には『此等多數の未熟練の婦人等に、產婆術を根本的に教授せよ、又特にこれが爲の教授を任命し、同所の解剖學教室に於て、その戶を鎖し、全冬期間獨り婦人屍體につきて、受胎、榮養、小兒の發育及分娩に關する局所の構造を解肢に依て講明するのみならず、各部の機能につきても亦能くこれを說示し理解せしめよ』云々といふようなことが御坐いました。

フリードリヒ大王が衞生の進步、從てその普及の要件について明瞭の考へを持て居られたことは、高等

醫學院に對して、小兒の看護、榮養及療法に關する講話の公開を命ぜられた時に『然れど其中に於て、羅典語或は醫學的術語は一切これを用ふべからず、これ無學の徒及び農民も此處に在りて、何人も能くそを了解し得んが爲なり』と仰せられたのを見ても明かであります。

十九世紀になりましては、衞生上の講話、講演は單に理屈の分かつた人ばかりでなく、一般から大に注目されたのでありまして、英國の政治家として有名なロードビーコンスフィールドは、衞生問題は實際的政治家に取ては蓋し最も重要の事であると申して居ります。卽ち『吾人は戰勝の譽ある國、又技藝學術の諸學院に富めるを驕り、博物館及圖書館に蒐集されたる寶を以て傲れる國を考へ得べし、然れど此等の邦國に於て、人口は減少し、或は只男子の平均身長の下降することを確定さるゝに於ても、以て當該國民は、漸次その偉大なる歷史的意義を損し、加之恐らくは全然これを消失するに至るべきは、確實にこれを豫言し得べし』と。

英吉利斯では、この十數年以來衞生思想の普及に力を盡したことは非常なもので、其結果も亦頗る見るべきものがあるのであります。現に世界の大都倫敦府の衞生的設備は、獨逸を措いては、他にこれに比すべき高等の發達をして居る所はないので、衞生學の元祖とも云ふべきマックス、フォン、ペッテーコーフェルの生れた獨逸國でさへも、その衞生的の施設については英國に學んだ所が尠なくないのであります。

かやうに獨逸、英吉利、これと竝んで佛蘭西が、衞生的進步の先頭に立つて進んで行くのは、如何なる譯でありませうか、これは此等の國々の富んで居ることや、又その內部の制度の善いと云ふことよりも、特にその國民敎育狀態の善いことに歸せねばなりません。實に無敎育の國民に對しては、如何に立派なことを話しても、如何程熱心に必要を說いても、衞生的設備の大事なことを解せしむることが出來ない

のであります。その精神能力が未だ開發せられず、或は迷信に凝り固まつて居るようでは、全く馬の耳に念佛であります。諸外國の政府に於て、當局の政治家が全力を盡し、善意を以て、豐富の材料を供しても、なか〳〵衛生上の實行進歩を見ることの出來なかつた經驗は隨分ある、これは畢竟人民の大部分が、此等衛生的施設に對して餘所事に思ふて居るのみならず、全力を盡してこれに反對するからであります。國民教育程度の低い處は、世界何處も同樣で、若し傳染病が發生した時に、政府で衛生上の法令を出すと、その爲に暴動が起ると云ふ次第で、露西亞、印度、西班牙、南亞米利加邊でさへ、斯樣な始末ですから、その他の野蠻、未開の國に至つては申すに及ばぬことであります。今一二の例を擧げて見ますと、先づ印度ではペストとコレラが度々起りますが、この恐るべき客が幾度も相反復して見舞ふて、その一度通過するや幾千、幾萬の生靈を奪ひ去ると云ふものは、住民の過剩と、水の缺乏と榮養の不良なこともその原因でありませうが、若し英國政府の勸める法規の價値を人民が一般に解つたならば、その害は遙かに〳〵少ないものであらうと思はれる、所が印度人に向て豫防法の效能を知らしめ、ペストやコレラ患者の屍體を井戸の中に棄てないようにすることは、防疫上極めて大切な法則であると云ふことを悟らしめるのは頗る困難なことで、只少數の者がその意味を解するに過ぎないのであります。人民の無教育は如何に驚くべき妄想を來すものであるかは、次の例が示して居ります。

一千九百年にボンベイから百五十英里程東のアーメドナガールと云ふ處に始めてペストが發生した。これは人口三萬八千計ある都會である。ペストは最近十年間に於て印度の各所に暴威を逞しうして、大凡二百萬の人間を奪ひ去つたが、アーメドナガールには未だ無かつたのである。然るに此處にも發生したと云ふので、官廳では嚴重に英國的の衛生法を施さんと試み、毎日全市の診査を行ひ、ペスト患者の發

見された家族を隔離し、患者はこれを病院に收容することゝした。所が一老僧が斯う云うことを揑造して言ひふらした、即ちこれは英國女王が老衰で將に死に迫つて居るので、その侍醫が、食餌に人間の心臟を處方したのである、それで政府の豫防と云ふのは、總て英國女王の爲に人間の心臟を取らうとする手段であつて、何でも一度病院へ連れて行かれた病人は、其處で縊り殺されて、その心臟は切取つて英國の女王へ送られると云ふのである。而して此の噂は殆ど到る處に信ぜられまして、其結果病人を掩蔽し、或は死人を私に井戸の內や椽の下に埋め、遂には病人や死人を家の中に閉込めて、そのまゝ棄てゝ行くものもあり、毎日平均七十人宛の死亡者を出したと云ふことであります。

又國民衛生と云ふものは、全く無敎育の或は迷信の猛々しい下等の人民には致し方のないものである適例は露西亞に於て見ることが出來る。ベルンハルド、ステルンの『露西亞に於ける公衆道德の歷史』と云ふ書物の中に、次のような面白い例が擧げてあります。

疾病が起ると、人民は忽ち屍體侮辱を始める。一千八百五十一年に、ポッサヂーと云ふ村にコレラが發生した時に、前の寺吏と其妻は吸血鬼であつたので、それで此疫病が起つたのだと云ふ評判が立つた。そこで人々が寄つて、その屍骸を發掘して首をもいで燒いた、體軀は墓の中に收めたが、それでも用心の爲めと云ふので秦皮樹の杭を以て突通して地に固定した。

一千八百九十三年七月三十日にタシュテマコツ村に傳染病が發生した時に、村の會議で以て、生前魔女であると噂された一人の百姓女の墓を撥いて、その屍を秦皮樹の杭で地に釘付けにすることを決議した。

或は疫病に對して『鋤き倒し』の法と云ふことを行ふ。これは如何なることをするのかと申しますと例へば、一千八百七十一年コレラ流行の際に、屢ゝ

この『鋤き倒しが』行はれたが、ぢき近頃もオーレル、タンボール、ヤロスラウ、ウォログダ邊で繰返された。これをやるものは精々襯衣位の身拵へで參加しなければならぬ、この『鋤き倒し』は赤裸かであれば最も效驗があるとしてある。これを始めるのは眞夜中頃で、先づ聖像が先頭に擔ぎ出される、その後には巫女が箒に騎つて續き、次に村の娘共が裸で鋤を持て來る、その後には燒鍋、爐叉、鳶口、鎌棍棒などを携へた村の女房連が、修羅場のような騷で以て走り出す。斯樣にして村を三遍鋤き廻つて、一人も人間に逢はなければ、それで惡疫が止む、尚は念を入れて其後で一頭の犬、猫、或は鷄を埋葬すれば一層驗があると云ふような迷信を持つて居るのである。これに就てオルロフと云ふ坊樣がかう申して居ります『この行列にばし逢はぬよう神も護らせ玉へ、動物は打殺され、人は働き倒され、氣を失ひ死して地に斃るゝに至る、これ恕すべからざることなり、それは此行列に逢ふものは、これで變化せる死にして、鋤倒しの列を横ぎり、鋤の利益の輪を破らむとするもの……』とせらるればなりと。

露西亞では、もそつと甚しい惡風がある、と云ふのは何ぞ身體に不具な所でもある人であれば、惡疫流行の際には直ちに死なゝければ實に殘酷な虐待されるのであります。その例を擧げて見ます、と千八百七十八年にウォログダのウスチュ、スシッソルュ邊でコレラの流行した時に、これは啞者が秘藥に依て惹起したのだと云ふ噂が立つた、所が丁度其頃啞の乞食が肩に袋を掛けて一村にやつて來ましたが、百姓共がこれを見付ける否や『虎列剌は、虎列剌殺にせ』と叫びながら無慘にも棍棒を以て毆り殺して仕舞たと云ふことであります。

又千八百三十一年ペーテルスブルグにコレラが起つた時などは、人民が暴れ出して虎列剌病院を打破したことがありますが、その時傍觀して居た人は、これも怪しいと云ふて、忽ち暴動に引倒されて、著物を剝がれ、魔物の正體を檢められたと云ふ話もあ

ります。尙は此種の迷信の深い國民に於きましては、疫病流行時にひどい目に逢ふのは醫者と藥劑師で、奇妙な怨を買ふて苦められ或は殺された例もあります、又た老人や處女が疫病神の犧牲に供へられて、ペストや、コレラ病で死だ者を收めた墓の中へ生埋にされたことなども澤山あります。兎に角迷信に固まつて居る未開の國民は、度し難いもので、先づ傳染病の流行時には水を一度煮沸して飮めと云ふことを諭しても、どうしても其の意味を理解することが出來ない。亞米利加の歷史家のアンドリウ、ディホワイトは合衆國の駐露公使としてペテルスブルグに居りましたが、その日記の中に、ある露西亞の百姓に水は煮て飮めと勸めた所が『神樣が煮た水を飮まなければならぬと仰せらるゝ位ならば、雲も煮なさつたらうものを』と答へたと云ふことが記して御座います。

叢談

熱と溫度

前の號に「冬の極く寒い夜中には、攝氏の零度以下十七八度になる事がある」と申しました。又「氷でも熱を含んでをる」と申しました。では溫度は零度から下の方へも限りなくある者でしやうか、卽ち熱と申す者は、ある物體から、取つても取つても取り切れず、限りなく含まれてをる者でしやうか。

大凡此世の中に於て、限りなく多量に存在する者はまづ少ない。殊に夫れ夫れの、個々の物體に含まれてをる者、例へば此金時計中の熱、この机の中に含まれる熱、乃至は此地球、此太陽中に存在する熱の量度とは、畢竟限りある者と考へる方が、眞に近い樣に思はれます。而して實際の亦、立派な學問上の

理論に據りますと、個々の物體中に含まれる熱量は、凡て限りのある者なのです。即ち何でも好な物體を持つて來て、之から或方法で次第に熱を奪て行くと、終には全く熱の無い、理想的無熱の物に相成るのであります。熱を與へれば溫度が上る、熱を取れば溫度が下る。盡くの熱を取去つた時は、何度まで溫度が下がるだらうかと申すと、其時は攝氏で凡そ零度以下二百七十三度に成る。云ひ換へますと、何な物體でも、之を零下二百七十三度まで冷しさへすれば、其物體は絶對に無熱となるのです。之には隨分確りした、然し又隨分と六つかしい、理論上の根據のある事で、吾々の様な不束な者は、唯之を信用して、先人の大なる苦心と、又學問と驚くべき進歩とを、只唯敬慕し、歎美するの外はありません。

實際、炭を溶かして液體にするとか、太陽の溫度を計算するとか、又は絶對に熱のない境地の溫度を、攝氏寒暖計に割あてゝ計算するとか、太陽や、月や、星の大さを測定するとか、地球から日月星辰までの距離を計るとか、乃至は地球の重さを算出するとか——其外まだいくらでもありますが——か様な事柄を昔の人に聞かせたら、まあ何と申すでせう。之程の事でなくても、瓦斯で御飯を炊いたり、電氣で日中よりも尚明るくなつたりする底の事でさへ、天保生れの田舎の爺さんなどは、隨分喫驚仰天致します。

さる代議士の女中さんの御父さんが、——之はつい近頃の御話ですが、——東京へ來て、娘の家即ち其代議士の宅に暫く逗留して、歸つてからよこした禮手紙の一節に、

……文明は捩る者と存じ上げ候、御燈明も捩り出し、（記者申す之は電氣燈の事です）、火水も捩り出し、（水道の水、及び瓦斯の事）車も捩り行き、（電車のハンドルの事）、戸窓も捩り開け、（ドアの事）話しも捩り出し申し候。（電話のハンドルの事）左候は誠にまことに、文明は捩る者かと存じ上げ參

らせ候・・・

とに角か程までの文明の進歩も、凡て學術の進歩の御影と考へますと、吾々は古の學者の偉業をば、大英雄、大豪傑の仕事よりも、尊敬し、又感謝し、尚將來の學者及び學問を、大臣の大將よりも尊びたくなつて來ます。

東京の電車の樣に、僕の話も度々脱線致しましたが更に本論に立ちかへりまして

絶對に無熱の場合、即零下二百七十三度を、學者は名けて絶對溫度の零度と云ひ、之から上へ一度、二度、三度と攝氏寒暖計の割合で計算を致す。そうしますと攝氏の零度は、絶對溫度の二百七十三度に當り、攝氏の百度は絶對溫度の三百七十三度に當る、攝氏の十五度は絶對溫度で二百八十八度、攝氏の零以下三十八度は、同じく絶對溫度の二百三十五度に相當します、略圖で種々の寒暖計の溫度の具合を比較して見ますと、

攝氏	絶對溫度	華氏	列氏
六五〇〇度	九二三〇	一一九二〇	五二〇〇
六〇〇〇度	八七三〇	一一〇二〇	四八〇〇
四〇〇〇度	六七三〇	七五二〇	三二〇〇
二〇〇度	四七三〇	三九二〇	一六〇〇
一〇〇〇度	三七三〇	二一二〇	八〇〇
〇〇度	二七三〇	三二〇	〇〇
一〇〇〇度	一七三〇	一四八〇	八〇〇
二〇〇度	七三〇	三二八〇	一六〇〇
二七三〇度	〇〇	五〇八〇	二四〇〇

絶對溫度が學問上重寶な事は、第一其零度の時は全く熱の無い時である。第二此溫度では、熱の量と溫度とが正比例をする。則ある金時計が、絶對溫度で計つて百度の溫度の時、之に含まれてをる熱の量は、同じく二百度の時に含まれる熱の量の半分で、百五十度の時に、同一の時計中に含まれる熱の、三分の二に等しいのです。此外また色々好都合の事もありますが、餘り深い學問上の事は、之位に止め

まして、次には少々零度以下の溫度の實例を申述べませう。

雪三分と食鹽一分とを交ぜた者は、獨りでに攝氏零以下二十度位まで下がる。此の中へ玉子を三十分も入れておきますと、玉子は中の黄味までも氷つて、樂に殼をむく事が出來ます。雪のない時節には、氷を碎いて代用しても宜しいのです。

水銀は零下三十九度で氷る。朝鮮の京城では冬の夜中に零下三十度位、滿州では零下四十度位に下がりますから、此邊では水銀の寒暖計で溫度を計る事が一寸困難です。かゝる場合にはアルコール寒暖計を用ゐる。寒暖計の心が光つて見えるのは水銀寒暖計で、赤く見えるのはアルコール寒暖計の、アルコールに赤い色素が溶かしてあるのです。

シベリヤの或地方では、零下七十一度まで下がる事がある。又北極や南極では、寒い盛りになりますと溫度が大抵零下五十度位まで、下がります。之等が地球上に自然に在る溫度の中最も低い者で、之からもつと低い溫度になりますと、唯學者が、實驗室の中で、特別の目的の爲に、特別の器械と、特別の仕掛を使つて、出來して見る丈けでしやう。

アルコールは零下百三十度で氷りますから、之よりも、もつと低い溫度を計るには、空氣寒暖計を使ひます。

二三の瓦斯の氷結點をあげて見ますと、

炭酸瓦斯	零下七十度。
アセチレン瓦斯	同　八十二度。
空氣、	同　百九十度。
酸素、	同　百八十一度。
窒素、	同　百九十四度。
水素、	同　二百五十三度。

空氣は右の通り零以下二百度近くになれば凝つて液體となりますので、之より低い溫度を計るには、水素瓦斯の寒暖計を用ゐねばなりません。しかし水素瓦斯も同じく二百五十三度で液化しますから、此の如き、或は之以下の低い溫度を計るには、電氣の力

を借りて、學問上の理論から計算致します。ヘリウムと名ける瓦斯を液體にするには、凡そ攝氏零度以下二百六十三、四度、則絕對溫度の零度、——絕對の無熱境界を去る事僅かに十度內外の所まで、冷やさなければなりません。

一體人間の力で何れ程低い溫度が作られ得るか、絕對溫度の零度が、人智で既に達し得られるかと申しますと、遺憾乍ら今日の所では、まだヘリウムの液化點則零下二百六十三、四度迄しか作り得られぬのです。未來に、——或は近い未來に、眞の無熱が得られるかも知れませんが、併し二百四五十度位からは、一度、一度と溫度を下げるのに、次第に非常な苦心と、骨折とが、甚しく增加して行きますから、或は絕對の無熱は神ならぬ身には必竟出來ないのかも知れません。

宇宙、則地球や、太陽や、月や、星やからかけ離れた虛空は、その溫度が略絕對溫度の零度に近いそうですから、世界の最大部分を、日月星辰、地球は世界の微小部分——は、極めて冷やかな者と考へられるのです。か樣に冷な、又箇樣に大きい虛空の中に、太陽や、星や、地球があるのですから、たとへ太陽の表面は六千二百度でも、又其中心はもつともつと溫度が高くても、地球の表面は最高五六十度（熱帶の砂漠地方）乃至最低零下五十五度位（極地方）で地球の中心は幾百幾千度位な者としても長い月日の間には、太陽も、地球も、星もみんな自分達の熱を、はてしのない虛空に奪はれて、何億萬年の後には、世界ははてからはてまで、殆ど無熱の有樣に變化してしまうそうです。

計りではない、側に小さな溫い日星が、比較上甚大きい、又甚冷かな虛空と並んでをるが爲に、日や星は非常に冷えるにも拘はず、——虛空は殆ど少しも溫度が上らずして、全世界が無熱の狀態に化すると同時に、光も全くなくなれば、あらゆる生命、あらゆる活動も全く已み、東西南北上下左右前後、盡〱十方の涯際を極めて、唯冷かに、唯默し、唯

靜かに、唯死せる娑婆となるそうです。之はカルノーと云ふ佛蘭西の物理學者が、物理學中、殊に熱學の研究の際に、確固たる論據から推定した、宇宙の運命の豫言です。

これで零度以下の溫度の御話もあら方すみましたが、最後にもう一つ、人類の生活には、凡そ何度位の所が最も適當かと尋ねると、之は甚範圍の狹いもので、上は攝氏の三十五六度、下は同じく、零下十度迄位の所である、併し此以外でもたとへば上は四十度近く下は零下六七十度の所までも生きて生きられん事はありませんが、箇樣な場所では生活が甚困難である爲に、人類の智德の發達進歩と云ふ方までは、餘力が迚も殘らない。だから熱帶地方の黑ん坊や、又寒帶のエスキモ人種などは、大古以來未だに甚野蠻の狀態にあるのです。四十度以上、又は零下六七十度より以下の溫度では、人間では迚も普通では生きて行く事が出來ぬ、しかし人間以外、殊に下等の生物には勿論夫でも生存する等が御座います。或種類の黴菌は上は百二三十度位、場合に依つては尙以上でも死なない事が御座います。之等の命丈夫な者の天頂でせう。

因に申しますが、人類に適した溫度が、上は三十四五度、下は零下十度と申しましたのは、固より空氣の溫度の事で、裸體のまゝで此溫度に曝されたり、或は皮膚を直に包む著物が、始終三十四五度であつたり、若くは零度近くであつたりしては、迚も生きて居られる者ではないのです。併し人間は衣服夜具等をつけて家屋を作つて、冬の寒い夜も暖かにし、夏のあつい日中も冷しくして、やつとの事生きて行くのです。

極樂に行つて見た人の話しに、極樂には、無熱池と云ふ池があつて、其所に功德水と申す水がたゝへてあつたそうです。之れは天竺が大變熱い國故に、若しあつくない所、則熱のない所があるならば、夫れは大變愉快な所であらう、又佛の住まはれる極樂は、極めて大歡樂の所故に、そこの功德水は凡て無

熱であるだらう、と云ふのが本になつて、慈悲廣大の御釋迦樣が、衆生濟度の爲めに御説きになつた法文の御方便でしやうが、實際熱の無い所では、人は忽か蟲けら一つ生きて居ず、又ごみ一つ動かないのは、前申上げた通りです。世界滅却の御話につゞいて、極樂淨土の御話で、目出度此項を終ります。

婦人の遊技

數年前英國上院の議會に於て、英國々民の健康なる繁殖に就てと云ふことで、婦人の衞生的教育が議題に上つたことが御座いました。其時ロード、キャニフ、フィールドと云ふ人、これは名高い醫者ですが、此事に向つては婦人の遊技的操作が非常に大切であると云ふ理由を述べ、彼の有名な獨逸の大教育家たるペスタローッチーの『體操的身體鍛錬は造物者より人間に賦與されたる才能を神聖に保ち且つ發展せしむるものとして甚大の權能を有す』てふ言葉を敷衍し大に其の意を發揮したと云ふことでありますが、英國婦人連は斯言に感動して、諸種の事を企て、婦人遊技にも勉めましたが、衞生的方面から見て頗る良好の成績を擧げて居ります。少し天氣の好い時に、倫敦の肺臟とも云ふべきハイド公園に行て見ますならば、婦人連が熱心に種々の遊技をやつて居るのを見ます。元來英國人は大に遊技を好で、なかなか立派な遊技法が發達して居るのですが、近來に至つは、凡ての階級を通じて國民性が偏頗になつて、遊技なども壓迫を蒙むる傾あるは惜むべきことであります。我邦に於ては漸く各女學校に於て遊技を行ひますけれども、一般に學校以外の婦人が、健康の爲めに遊技をやると云ふようなことは、未だなかなか出來そうもありません。けれどもこれが實際人間の身體に有益であり且つ完全なる女性の發達に必要なものとすれば、今日の狀態では行はれないとしても、少なくとも子孫の爲に國民の爲に、漸次その道を開いてやる覺悟がなければなるまいと思ひます。

それに就ては歐米婦人の間に行はれて居る遊技の種類及び方法、その效力、これに伴ふ害などをも講究して、その短を捨て長を取つて、我邦婦人に最も適當したものを輸入し改良するが得策であらうと存じます。

概して申しますと、女らしからぬ運動、卽ち烈しく身體を伸ばしたり、幅飛とか、高飛とか此種の運動は容易に婦人たる自覺を毀損するものでありますから、これまで一般に、婦人の遊技は、圓い範圍の內で行ふ、拍子に合つた運動が最も良いとされて居ります、それで舞蹈が先づ今日迄の所、最も完全な調律的運動と見做されて居りまして、歐米に於ても直近頃までこれが殆ど唯一の婦人遊技であつたのであります。但しこれは彼の社交的の舞蹈のことではありません、體操的の輪舞で、その美的價値は運動の型の美とその巧なることにあるので、今日の舞蹈の樣に身體を捻り廻すのではありません。

婦人遊技法の原則としては、現今の新式體操で云ふ所の所謂自由練習が大切である、卽ち膊、脚、手足脊柱、腰部、顏面筋其他の諸種の運動と、樣々なる步行足どりとを組合はせて、適當な目下流行の遊技法が出來て居るのであります。

此等の練習に依て、單り身體の健康上に大效あるのみならず、獨立して事を行ひ、且つ萬事に念を入れて氣拔かりせず確かりして來ると云ふことも既に證明されて參りました。婦人によく見る所の彼の氣隨氣儘、浮薄輕躁などゝ云ふ缺點には、遊技は大敵でありまして、適當の遊技に依てこれが自然矯正されるものであります。

凡て遊技の練習には、その人々の特性を重じて、それに依て色々練習法を變じなければなりません、一見した所では健康なやうに觀える婦人でも、或種類の運動は全く嚴禁しなければならぬ場合が往々あるのであります。

なぜかと申しますと婦人の身體の練習は、力一ぱいにやると云ふ事は出來ませぬので、運動の中でも餘

程の部分を制限しなければなりません、即ち劇敷飛こか、手足を急に伸すこか云ふ樣な事は避けなければならぬのは當り前であります。

尤も善い運動として米國や獨逸あたりで盛に行はれるのはロンテニスでありますが、只今申した原則から云ひますと是亦最も善い運動として勸める譯にはまゐりません、且つ此遊戲は兎角過劇に失し易いので其の爲に絶す心臟筋肉に害を及ぼすやうな事になつて、危險な内臟の障碍を來すこともあり、又この遊戲では屢〻手足を捻るやうな事がありまして、尤も大した害もありませんけれ共手の腱をちがへるやうな事があります。又テニス運動場で日光に浴することも一つのよい事には違ひませんが、身體の爲には寧ろ森や河の清潔な空氣が一層有效なのに如ぬのであります。

婦人の遊戲には嚴格な意味で云ふ處の衞生上の影響の他に、婦人美の完成と云ふことも亦極めて大切な一つの問題と成つて居ります。

次に身體のために所謂遊戲を行ひますには、多少又その準備が必要であります、それには先づ毎日沐浴する事が必要の一つであります、沐浴した後では僅に皮膚が赤くなる位に身體を十分擦るがよろしい、それから運動をして稍〻骨の折れた場合には晩に少しく脂肪を擦り込めば皮膚の乾燥して剥れるのを防ぐことが出來ます、若し元來皮膚に脂肪が多ければ晩に少しくグリセリンと硼酸を加へた微溫湯で洗へばよい、然し一般に遊戲する人にはこの必要なことは稀れであります。

近頃の遊戲運動にはその副産物として所謂日光浴と云ふことが大層效能のあるやうに云はれて參りましたが、無暗にこれを應用することは勿論よろしくない、少くとも是を行ふ事は十分の注意を要するのであります、多くの人は一週間位光線浴、或は日光浴を行つて格別不快も感じなければ、それで以て非常に身體の爲になることをしたかのやうに思ふて居るのであります。

遊戯練習に於て行はるゝ最もよい方法は運動前の水浴と遊戯後の空氣浴とでありませう。

空氣浴と申しますと大變大袈裟でありますが、數分間自分の室の中で着物を脫いで居ればそれで澤山なのであります、是れでも初の間は丁度風を引くやうなことがありますけれ共注意して少し身體に力を入れる氣味で毎日空氣浴をやりますと、其後は風を引くこともなくなりやゝ長く着物を脫いで居つてもよく堪へるやうになるものであります。

食物は混食が最もよい酒精性の飮物は全然避けた方がよい。

終りに運動衣はドンナ物がよいかと申しますと、袖なし襦袢を著て自由に腕の運動が出來るやうに、ゴム帶でしめて男子のヅボンに類した裾のとぢた物を用ゐ上著は短いかく靴もひくく廣い所謂英吉利底を用ゐます。

以上申し述べましたことは餘り概略でつゝまりが付かぬやうでありますが。兎に角歐米の婦人は自分の健康及び婦人美の完成のためと衛生的の遊戯法を講じて國民の健全な發達を希望して居ることは實際でありますから今日の處我邦に於てはまだ〳〵斯樣なことは婦人の間に實行されず、否考へもされない時代でありまするが、何れは西洋婦人と競爭して行かなければならぬのでありますから斯樣なことをボンヤリながらも御紹介して置くのも無駄ではあるまいかと存じます、實際のところ日本婦人と西洋婦人とを竝べて見ましたならば、其知識や性格は論外として身體の大小、姿勢のよしあし、顏色のよしあし、つまり婦人としての身體全體の健康及び容貌は、どちらが優つて居るかは是亦殆ど論ずべき限りでないと、申さなければなるまいと思ひます。

美容法（承前）

第一　口

口と申しますと、今日では齒科學が非常に發達して

參りまして、その效能も普ねく認めらるゝ所でありますが、茲には餘りその方の關係はありません。口唇の形に就いては、彼の複唇が手術で以て治すことが出來ると云ふことだけは、既に申上げて置きましたが、厚い、反りかへつた猪の樣な口唇などに對しては如何とも致方がありません、これは又これで以て能く其人品に似合つて居るものであります。次に狹い、指で以て摘まむだような唇は、これは臙脂をつけて廣く見せることが出來ます。卽ち唇の眞中の兩側の處で、皮膚と粘膜の移行する部分に大約壹ミリメートル程の幅に線を引けば澤山です。下唇は臙脂は殆ど餘計なことですが、細い筆で以て口角の所まで線を延ばせば口は廣く見えます。一寸お斷をして置きますが、既に御承知の通り、こゝで申上げるのは、主として西洋婦人の美容法を御參考に供するのですから、美容法の基礎たる衞生的の部分、又可成自然そのまゝの美を十分に發揮すると云ふ原則は、何れの國に婦人も守らねばならぬことゝして適用されますが、所謂化粧と云ふことになりますと、これはその國々に依て嗜好も異なり、時代に依ても違ひますから玆に述べますことを、そのまゝ應用されますと、時としてはお望に反する結果が現はれ、或る却て滑稽なことになるかも知れませぬから、凡て只參考になさるように、而して御自分の特性に應じて、適宜に取捨して、從來の化粧法の足りない所、幼稚な所、非衞生的な所を補ひ且つ改良するお考で讀で頂き度いのであります。

扨て液性の赤い口臙脂として適當なものを一つ申しますと、カルミンと純粹の液性アンモニアク各一グラムを、望の紅さに從つて二〇グラム乃至五〇グラムの水で薄めたものが用ひられます。

又口唇が、殊に冬になりますと、荒れて皹裂ることがあります、こういふ時には、晩に歯を磨いた後で、クリーミ或はワセリンを少々塗つて置きますか、又は蜜蠟、鯨蠟、扁桃油に一〇プロセントの硼酸と、紅味を附ける爲にカルミンを加へて臙脂として用ひ

ると宜敷しい、即ち硼酸三瓦、カルミン〇・一蜜蠟、鯨蠟及び扁桃油各一〇瓦と云ふ割合であります。香料は脣に發疹などを出來かす虞がありますから、寧ろ加へぬ方が可いと思ひます。風を引いたり、胃を損くしたり、又熱性の病氣の時によく、口脣に發疹することがありますが、これは自然に治る、併し粉藥をつけたり、次のような處方の水藥を筆で塗けたり致します。硼砂五・〇グリセリン水各一五・〇口脣の濕疹、又皹裂などの場合には、軟膏の代りにグリセリン劑をよく用ひます、例へば無色ヨード丁幾一・〇乃至五・〇グリセリン一〇・〇

齒は、美と云ふ點から申しますと、どうしても完全でなければなりません、只隙いた所を充塡たりしただけでは未だ十分に身體の美を完成するには足りません。出齒や亂杭齒も、出來得るならば人工的に適當に矯正したいものであります、併し無理なことをしては勿論宜敷くない、確かな齒科醫に診察を乞ふて、正に治療すべきもの、又矯正し得べきものゝことであります。

齒の色は、健康で且つよく衞生を守られて居るならば必ず美しい筈のものであります。齒の衞生には齒を磨くことの必要なことは何人も知つて居る所でありますが、往々その磨き方の不完全なことや、不正なことがあります。先づ楊子を使ひますには齒の表面を横に磨き、縦に磨き、又齒の裏と咀嚼面を注意して掃除することが肝要であります、然るに只齒の前面を横に磨くだけの人があります、これでは甚だ掃除が不十分で、所謂座敷を丸く掃いて隅は殘して置くと同樣のやり方と申さなければなりません。

齒は少なくとも毎日一回は是非磨かなければなりませんが、夜寢る前に楊枝と齒磨粉を用ひ、朝は水で口を嗽げば宜敷からうと思ひます。齒磨の材料としては石鹼と防腐劑を混じたものが適當ですが、クロール酸カリウム巴斯多などが先づ最も理想的のものでありませう。

其他食事の後には何時も小楊枝を用ひ、水で以て口

や咽を洗ふことが必要であります。これには特別な含嗽水とては必要ではありませんが、若し用ゆればエーテル性油で香りを付けた含嗽水、特にメントール油を加へた者を用ひますが口唇の粘膜によくないのであります。若し含嗽水に防腐性のものを加へやうと思ひますならば、是に少々食鹽を溶し或はコップ一杯の水にチモール一片入れまして、チモールは少しか溶けませんがこれを振つて其溶液を少々含嗽水に加へればよいのであります。この種類で香りのよい、含嗽水の處方を一つ擧げて見ますと、

チモール一瓦　安息香酸二瓦オイカリプトール三瓦　酒精百瓦

右一滴を水に加へて用うるのであります。

齒齦の粘膜が過敏なやうな場合には沒藥丁幾、ラタニヤ丁幾などと云ふものを毎日筆で以て其部分に塗ることがあります。物を食して口が不味いと云ふやうな狀態は頭が重いと云ふことゝ共に是は文明人の哀しむべき習癖とでも申すべき者でありませうか。

野蠻人、自然人類は、その食物や、其他の關係からして別に口の衛生などは必要がないと云ふ說もありますが、これは誤りで殆ど何れの人類も口の衛生を行つて居るのであります。尤も文明人には齒質が惡くなつて來る傾がありまして、これは單に齒磨と楊枝だけで善くする譯には參りません。體質全體を改善しなければならぬのであります。又楊枝や齒磨を用ひないでも美しい齒はあります。例へばパプアの黑奴、リタウエル、露西亞の猶太人の如きでありますが、此等は個人的又は遺傳的の性質と申すべきものであります。

次に口の清潔を怠りますと、文明人特有の、驚くべき口臭を來すに至ります、それのみならず、齒の腐朽、胃病、鼻、咽腔の疾患などを惹起して醫師の治療を要することにもなります。口臭を除くに最も良いのは三プロセントのペルヒドロール水であります。口の惡い臭を隱す爲に種々の香ある錠劑や丸藥の如きものを嚙む人がありますが、これは自分はな

るほど善い香で臭いのが分からぬかも知れませんけれども、傍のものは、一つでさへ澤山な臭に更にも一つ異樣の惡臭を嗅されることになります。亞米利加では種々の香あるものを嚙むことが流行で、我邦にも多少輸入されたようですが、實に厭ふべき惡習と云はなければなりません。

尚ほ口は諸種の病原の宿所となり、出發點となり、又諸般の病氣の侵入門でありますから、口の衞生は全身の健康の爲にも美容の上にも極めて大切の事であります。

育兒

乳母撰擇難

新町隱士

母の乳の不足な時には、牛乳より乳母の乳をやる事のいゝのはもはや世間一般から知れ渡つた事柄で、又學理上からも其方が確かにいゝ、尤も西洋では生活の關係からして、乳母になり手も少いし、給料も非常に高いし、待遇などもやかましいから、いゝ乳母を置く事は非常な難事で、乳母を雇つて、小兒を育てゝゐる家庭は非常に稀れである。

幸ひに我國では、乳母のなりてがそれ程に少いと云ふ譯ではなし又給料も左迄高くもない爲に、まだ諸方の家庭に雇はれて居る。

所が文化の度が進歩して來たこの頃は、諸處の家庭で乳母を雇はれるに際しては、必ず乳母の撰擇と云ふ問題が起つて來て、大抵其家のかゝりつけの醫師が乳母の檢查をして、取りきめるようになつて居る。

この乳母の選擇と云ふ事が非常な難問題で、時によると數十の候補者を檢査しなければ、適當なのを得にくい事がある位で、之は一つは乳母が目見えに步いて居る內に漸次に乳の仕方が細つて行くと云ふ理由もあるが、大體は、乳母を世話するものが數方の

ない桂庵であつて、醫師の方の檢査がやかましくなればなる程、桂庵の方でもうそをつくのが上手になつて來て、醫師の方でまじめに調べようとしても、少しも信頼する事も出來ず、餘程の手數をかけなけば、眞によいのやら惡いのやら診斷する事が出來ない事が少くない、之が乳母の選擇をむづかしくさせる理由であるを今こゝに書籍や雜誌にかいてある乳母の條件と實際とを比較して見よう。

一、乳母の年齡　は通例二十歲から三十歲迄がいゝとしてある時によると體格さへよければ十八九でもいゝ、この年齡丈はだれが見ても、そうごまかす譯に行かないから、あまりのうそはつかないが。

二、分娩の時日　となると、之は八分通りは、うそを云ふ、通常分娩時日の二ケ月前後と云ふ規定であるが、之を乳母に聽くと、大抵其時分に分娩した事を、いゝ加減に答へる。尤も乳房のさきの黑色を生ずると否とで略分娩から月日のたつた女か否かは分るのではあるけれど、これは、各個の人によりてもちがうので眞に二三ケ月前に分娩した女でも乳くびのさきまで黑くないのもあるから、あてにならない第二に乳汁のうすさ濃さでも分娩の時日が分るのであるが、之は月日が分る程に精密には、分らない、中には極く健康な女になると分娩後一年以上も乳を吸はして置いても、なほ立派な顯微鏡で見ても美事な乳を出して居るのもある位で、最も確かなのは乳母の身許を調べて、眞に何月何日に產をしたのかを取り調べるに限るのである、之には單に戶籍などを調べてもらつても判るものでないから一々人を派出して精密に取調べさせるのである、やれ上總の何郡とか、葛西の何村とか、一々人を派出するのは甚し程決して樂なものではない。

三、乳母從來の疾病と其家庭の病氣の遺傳　之が前のよりももつと困難である、檢査時に乳母なり、桂庵なりに、今迄何か病氣をした事があるかと尋ねると、百人が百人、今迄醫師にかゝつた事がないとか、樂といふものは、飲むだ事がないとか云ふ連中ばか

りで、いづれもいづれも無病息災のものばかり、さても遺傳や何かは分りそうにもない、之も身許搜索が一番であるが、之は前の御產の日を確かめるのよりはずつさ困難であらう、だがそうしさいすれば其家に肺病の血統があるさか、癩病の家筋であるさか餘程よく分る、

四、乳母の敎育と從來の家庭關係　乳母に敎育迄望むのはあまり慾ばりすぎるかとも思へるが、ないのよりはある方がいゝのは分りきつた事である、だが百人中五十人位迄は學校へ行つた事がないと云ふ返事を得るのは、日本の普通敎育は非常に發達して居ると云ふ報告などに比して、實際不可思議に思ふ所である、尤この敎育の事に關しては檢査の際あまりうそはつきませんが、第二の家庭關係の方には隨分うそが多い、まさか自分の方から平常しまりの惡い爲に追ひ出されて據ろなく乳母に出ますなどと云ふものもあるまいが、其亭主との關係などは多くはよく分らない、(尤も中には眞に亭主を持たない、で小供が出來、據ろなく乳母に出ると云ふのが、百人中三四十人位はありましようから)、只小兒に乳をのませる外に、多少は乳母の感化も受けるものであるから、あまり破廉恥なものを雇ひ入れて、今迄の家庭を破壞される危險も多少は顧慮しなければならない。

博文館の氣質全集中にある乳母氣質の中に酒をのむ乳母、內處で演劇を見る乳母などが面白くかいてあるが、僕が見たり聞いたりした內でも、亭主が入牢して居るもの、亭主と未だほんとうに手が切れて居ないで時々あばれこむもの、前借をして置いて逃亡するもの、などがある、甚しいのになると云ふと乳母に住み込んでから盜賊の媒介をするものがあるそうである。

まづざつと以上の事柄が及第してから、體格の檢査をやる、幸に身體の諸臟器が無事であつたにしても、又茲に一大難關が横はつて居る、それは乳がよく出るか否か、の問題で、これは乳房の格好

や、觸れて見たふくれ方位ではどうも眞僞が分らない、尤も非常にしなびた、小さな乳房で、しばらせて見ても乳が少しもはしらないようなのは無論落第であるが、多くの乳母は多分桂庵から敎はるのでもあらうか、目見えにくる前には乳を一日も半日もためて居いて、乳房は石の如く堅く、且又大きく、餘程氣をつけて見てもだまされる事が有り勝ちである、こんなのははじめ一回丈は非常によく出ても二度目三度目になると乳不足で小兒が泣いてきかないから、すぐ分る、實に下らないかくし立てゞあるが、どう云ふ譯かこんなのが十人の中から五人位迄はある。

其他數へ立てればきりがないから略して、こうして取り極めた乳母が、時によるとゐついて二三ヶ月もすると乳があがつて出なくなつたとか、其家庭に氣に入らないで逃げ出したとか種々雜多の事に遭遇する。

要するに乳母撰擇といふ事は非常に厄介なものである。

小兒と居室

小兒の死亡率と居室の狀況の間には密接の關係があると云ふことは既に統計的に確かめられたことでありまして、幼兒の死亡數は居室の大さと反比例をして居る、即ち居室大なれば死亡數は少なく、居室が小なれば小兒の死亡數が多いと云ふ譯であります。今これを小兒の數に依て區別致しますと、單獨居室に於て最大多數となりまして、これは其の居室中の空氣と溫度とに大關係があります。

哺乳兒も善良にして純粹且つ新鮮なる空氣の必要なことは大人と異ならない否、大人よりもこれが一層必要なのであります、然るに小さな室內に在て滿員の狀況では必要だけの空氣の量がない、それのみならず種々不良の蒸發に依て不潔になり、尚ほ斯樣な惡い空氣は務めてこれを新鮮な空氣と入換へなけれ

ばならぬが、左樣の注意も拂はれないのが常である、特に冬季に於ては室の溫度を失はぬようにと云ふので、一切窓を開けない、寒いから戸障子を開くこともしないのであります。

既に今から十九年程前にドレスデンのドクトルマイテルトと云ふ人は、小兒虎烈剌の死亡するのは通氣の惡い居室と大關係があると唱へ、獨逸のリユベックやステッチンで小兒死亡率の特に多いのは狹い街道や屋敷の中にゴツ／＼人間が詰まつて居る爲であると說明致しました。一年中狹い小さな不良の住居に於ては健康に適した廣い室よりも非常に小兒死亡數が多いと云ふことが證明さるゝ以上は、夏季に於ては特に一層甚しいことは明かであります。卽ち風通しが惡い爲に室の內が涼しくない、夜もなか／＼熱さがさめない。從つて小兒が暑さに負けるといふことになるのであります。それでドレスデンの博物學及治療學會で講演したトイテルトの說に依れば、小兒死亡の主因は榮養よりも寧ろその住居の如何に重きを置かなければならぬのであります。是を以て哺乳兒の衞生は單に榮養のことのみならず、居室の衞生に就ても亦合理的の注意が必要である。我邦の建築は本より西洋程居室の換氣は必要でない、然しながら都會に於ては益々人家が稠密となり建築も漸次西洋風になつて參りますから、今日から此邊の注意がいることゝ存じます。而して狹い建込めた家々の間に息もつけぬやうな住居を設けることを禁じて、小兒を蒸し殺さぬように氣をつけ度いものであります。兎に角小兒の養育には、單り乳のみならず空氣についても大に衞生上の注意を拂はれむことを希望するのであります。

就眠の惡癖

夜床について寢る時に、夜具や蒲團を口から耳、否頭まで被つて寢る人がありますが、これは健康上甚だ有害な就眠法と云はなければなりません。なるほ

ど小兒を眠らすには『早くねんねしないと、狐が來る、そら妖怪が來る』と威かして身體を縮ませ、何も見えず聞えぬように夜具蒲團を頭から被ぶせて仕舞へば早く眠るでありませう、それで乳母や女中は無論ですが、お母樣も隨分この催眠術を掛ける人が少なくないようである。『妖怪が出る』と云ふ催眠術の掛け方の宜敷ないことは申すまでもないが、こゝには蒲團を頭から被ぶせることの害を述べようと思ふのであります。これは決して小兒を寢かす時ばかりでない、大人御自身も此方法を用ふるが少なくない、卽ち蒲團の下を匐ひ廻つて居れば光線の刺戟もなければ音響にも妨げられず、且つ早く暖まると云ふやうな點から眠るには便でありませう。然し此寢方を考へて見ますと、どうしても衞生上宜敷ない、と云ふのは、この際吸ふ所の空氣は、今出した所の空氣である、さなくとも戶や窓を密閉した室の內で、特に就寢前迄ランプを燈し、炭を燃いた室などであれば隨分空氣は不良になつて居る、それをそのまゝ閉ぢ込めて、尙ほも蒲團の中の僅かの空氣の中で同じ空氣を吸ふては呼き、呼いては吸ふ、その上全身の皮膚から絕えず發散する所のものを混じますから非常に不潔の空氣に成つて居ります。これは畢竟一種の自家中毒法とも云ふべき仕方であります、肺臟でも心臟でも、總て身體器管の生命の水たる血液を、生活に適當した健康の狀態に保つには、是非とも酸素が必要である、然るに只今申したやうな蒲團の中の空氣は、迚もこの酸素の要求を充たすには足らぬと云ふことは自ら明かなことであります。空氣は少々不潔になつても目には見えないからでありますが、水にして考へて御覽なさい、一旦身體を洗つた水や、一度飮んで吐出した水は、何人もこれを復た飮まうとは、考へるも嫌だらうと思ひます、然し狹い蒲團の中で呼出した不良の空氣に更に不潔の發散物を混じて、それを終夜反復して呼吸するよりは、まだ餘程害が少ない。實際蒲團の中で一夜中毒しながら昏睡したのと、新鮮な空氣の中に睡眠したのと

は、其翌朝に於て非常な差がある、換氣法に注意して正しく顔を出して寢た次の日は、確かに身體の疲勞が恢復して頭腦も明晰に、精神の爽快を覺えるけれども、自ら蒲團蒸しに逢ふた翌朝は餘り疲勞も恢復せず頭が重いやうな氣が致します、習慣になつて居る人は、それが普通と思ふて居るかも知れませんが、試みに二種の睡眠法を比較實驗して見るならば、必ずその差の著しいのに驚くであらうと思ひます。

これは容易に習慣となり、習慣となればなか〳〵直ほらない、枕に著いた時は、惡いから顔は出して寢ようと思ふても、何時の間にやら龜のように顔を蒲團の中に引込めて睡つて仕舞ふものであります。それでこれは小兒の時から習慣をつけて、寢る時には必ず顔を出して眠るように、決して龜や鼹鼠の流義を學ばぬやうに氣をつけることが必要であります。

小兒の足

嬰兒の足はプク〳〵した誠に可愛らしい形をして居りまして、その感覺も頗る微妙で、能く物を持つたり握つたりすることも出來ます。これは兒をお持ちになつた方は何人も御承知のことで、小兒は能く足趾を以て人の指を捕まへたり、箸を握つたり、夜著を除けたり致すのを見るでありませう。實際猿ばかりでなく人間の足も矢張殆ど手でする位のことが出來ます。それは生來手の不具の爲に、小兒の時から足を以て手の代用をして來た人に就て見ますと、驚く〳〵勿れ足で以て立派に字も書けば算盤もおく、話もかけば、胡弓もひき、裁縫さへするものがあると云ふことであります、これに出てみますと、足も矢張把握の器官として使ひ得るだけには生れついて居る、且つ餘程手に近い所まで發達さすることが出來るものであると云ふことが分かるのであります。然るに大概の人は斯うは出來ない、否、足の趾を思ふ

やうに擴げることさへも覺束ない。これは抑も如何なる譯かと申しますと、第一手の運用法卽ち手先業の敎育練習が遺憾なく行屆いて、足趾の手傳、その場合には手傳と云はずに足傳とでも申しませうか、その要がないのと、第二に常に全身を支へて地を蹈むことのみに使用せらるゝのと、も一つは足袋、靴下、靴の如きものを以て運動を制限し、或は妨碍さるゝ爲であらうと思はれます。

この點から申しますと、我邦從來の小兒に用うる、紐附足袋、草履と云ふ穿物は先づ殆ど申分の無いものであります。然るに近來は小兒にも靴下、靴を穿かせる西洋風が追々盛に流行して參りますから、その宜敷くないことをお話して見たいと思ふのであります。

歐米人は小兒の時から甚しくその足を虐待して居りますが、全身の健康には格別大害も認めぬやうですけれども、大小種々の不便不都合を來して居ることは事實です。西洋人は支那貴婦人の足の圖でも見れば直ちに、斯樣な不具畸形を以て美とするやうな國民に比すれば、吾々は遙かに高等なものであると云ふて、彼を輕蔑し、自慢高慢を致します。けれども西洋人もこれに就ては少しも自慢する資格は無いのです。試みに彼の美事な、如何にも立派に、尖つて、高い鉤形の靴を貴婦人の足から脫がして、靴下を取つて御覽なさい、實に見られぬ醜くい畸形を呈して居ります。卽ち趾は曲つて重り合ふて「タコ」や「ウヲノメ」で被はれて居ると云ふ有樣であります。

元來生れたばかりの小兒の足と云ふものは、前の趾の方が幅が廣くつて、段々踵の方に狹くなつて居る、又拇趾は眞直の方向で、第二趾とは可成廣く其間が離れて居る、斯くの如き足は、迚も今日流行の靴には嵌まらない譯であります。

今日流行の靴を、人間生來の足に持て來て當嵌めて見ますと餘程無法なものであります。先づ尖端が尖つて居る、而してその尖端は拇趾の先の處には當らす、恰も第三趾が一番長いかのやうに、足の眞中の

處に在るのである。又足の格好が善く見える爲には狹くなければならぬと云ふ所から、出來るだけ窮屈に靴を作る、而して踏み出す時には、體の重みに依つて足の幅も長さも擴がりますが、それらの事は少しもお構なしで、足の彈力と收縮力を惡用して、無理に狹い尖端の嘴のやうな靴の內へ押込み、遂にその間違つた靴の形にして仕舞ふのであります。そこで足は靴の內でどうなるかと申しますと先づ拇趾が足の內緣の處で鉤形に曲げられ、その上や下へ他の趾が重なり合つて靴の內壁に壓つけられることになるので、その結果は壓迫を被むる所の表皮が肥厚して胼胝、鷄眼などを生じ、軟部や骨にも焮衝を起し、爪も片輪になつて仕舞ふのであります。尤も最初は、靴を脫げば、それで足は本の正しい形に復しますけれども、遂には靴を脫いでも本の形にならない、つまり畸形を呈して、手術でもしなければ人間本來の足には成らない、從つてこの畸形に依て足の働が妨げらるゝことは當然であります。卽ち步を運ぶ時には踵の眞中から眞直に拇趾の下、拇趾の尖端と云ふやうに運ばるゝのが、左樣には行かなくなり、身體の運動も妨げられて、不自然になります。斯樣な譯で、特に彼の尖形の靴を穿きますと、足蹠の穹窿が不正の方向に蹈付けられまして平扁足と云ふものになり。長時間の步行に堪へなくなります。踵の高い尖形の靴は、步行を不自然にし、從つて步行を醜くし、不確實にし、挫傷、骨折等を起し易く、其他種々の害を來すと云ふことは、西洋の醫師も隨分忠告して居りますけれども、矢張それがえらさうに、氣品が高いやうに見えると云ふだけで、この有害な靴が未だに流行して居る、此邊は決して支那婦人に劣らぬ所であらうと思はれます。

小兒に初めて穿かせる靴は、前に述べた程甚しい不都合なものではありませんけれども、併し矢張足本來の形には合つて居りません、而してこれが漸次大きな新しい靴に穿き更へる每に、大人靴の不都合に近づいて來るのであります。それで西洋人の大人で

は殆ど滿足な足は無い。實際壯丁檢査の時に、歩兵科に編入することの出來ないものが澤山ある、と云ふのは足が不具で長行軍に堪へぬとせらるゝのであります、況や胼胝、鷄眼、爪牀炎、その他足の疼痛を起す慢性の炎症などで苦められ、運動歩行を妨げらるゝものは、實に無數と云ふ有樣であります。

足が一度斯樣な畸形を呈しますと、最早靴を脱いだとて本の形になるものではありません、故に若し小兒に靴を穿かせるとすれば、最初から正しく足の形に適合したものを用ふることが必要である。小兒だからと云ふて左右の靴を交代に穿かせるなどは甚だ不條理な儉約法と云はなければなりません。靴を作る時に注意すべき要點を申しますと、先づ左足と右足とは全然同樣ではないから、各別に測らすこと。靴底は足蹠の形に適合せしめ、內緣に於て最も長く、小趾の面に於て最も廣がるべきこと。而して兩方の靴を揃へて見ると、踵と底の內緣が中央から尖端まで接觸しなければなりません。即ち拇趾が足の尖端に成つて居るからであります。尙ほ踏出す時には足は長くなり、趾の處で廣くなりますから、此時の大さで寸法を取らなければなりません。又靴底の前端は僅かにそること。上の革は底革の緣から急に起つて拇趾の處で最高を保つこと、踵は又廣く低く、可成り前の方まで附いてることが必要であります。

出來合ひの靴は、迚も足に合ふ筈はありませんから、どうしても注文しなければならぬ、そこで只今申したやうな理屈に適つた靴を特別に造らすことになりますと、なか／＼價の高いものとなります。上衣やヅボンを年々大きく新調すると同樣否靴は尙更注意を要する、何れにしても厄介な事で、我邦の草履や下駄のやうに簡便には參りません。

西洋人の足の畸形は、主として靴の爲めであるが、靴下も亦大にこれを助けて居ります。即ち漏斗のやうに先の尖つた靴下を穿きますから、四方から彈力性に足を壓縮して、小兒の軟い足は、これだけでも十分害されます。此點についても我邦の足袋が宜い、

靴下を用うるにしても、その外形は足袋に倣ふことが必要である、即ち左と右とを別にし、その一番長い處は眞中でなく、拇趾の處でなければなりません。元來靴の目的は、足の外傷、濕潤及び寒冷を防ぐにあるのでありませう、それで最もこれに適當なものとして革が用ひられる。然るに革は空氣を通しませんから、足の皮膚の爲には甚宜敷くない、特に狹い靴を穿くに至つては、血液の循環を妨げますから、益々不健全である。而して汗が出てもこれを蒸散することが出來ませんから、靴下は容易に濕つて、冷たい底の爲に、急速に熱を奪はれ、足が冷えて非常に不快で、感冒に罹り易い。そこで厚い靴下を穿いたり、護謨靴を穿いたりして、これを防がうとしますけれども、孰れも不適當であります。西洋人は斯の如く足を虐待致しますから、頑固な而かも極めて不快な足汗症が多いやうであります。

靴は下駄や足駄よりは確かに便利ですけれども、以上の如き害も少なくないから、相成るべくは通氣の悪い革の靴を穿くことを制限し、護謨靴は止むを得ぬ時だけ穿くやうにして、害を少なくし度いと云ふのは、西洋の醫師の企望して居る所であります。兒童が外から歸つて來ました時には、必ず靴を脫がして足を拭かせ、上靴又は上草履に穿き換へさせ、護謨靴は天氣の悪い時の外は用ひさせぬやうにしなければなりません。寒い時分にはコルク、又は紙のやうな熱の傳導の悪いものを入れ底にすれば、能く足底の冷えるのを防ぐことが出來ます。

溫い室内では、跣足で歩かせるが宜敷い、又時に依ては跣足で只草履だけを穿いて庭園を散歩させることも頗る必要である、これに依て足の皮膚は堅固になり、疼痛や濕度の變化に對しても強くなり、凡て靴の內で被むる所の障碍を補ふに足るのであります。

この足の皮膚を強くすると云ふことは頗る必要なことであります、何故なれば足は冷たい所に觸れますと、身體の他の部分よりも急に冷却されるからで、

時に靴下が汗で濕めつたり、外から濡れたりする時は一層甚しいのであります。

足を堅固にする目的には朝晩、即ち衣物を著る時と、晩に著物を脱ぐ時に水で洗ふのが宜敷い、但し初の間は、水で洗ふのは甚だ不快なものでありますけれども、漸次慣れると何でもありません。西洋人のやうに丸でブリースニッツ罨法でも絶えず行ふて居るやうな風の足は、甚だ薄弱で極めて過敏ですから、一寸靴下を脱いでも直ぐ感冒に罹り、洗足では疊の上も痛くて歩けないと云ふ有様であります。然し足は又慣らすと容易に慣れるもので、規則正しく冷水で洗へば暫時にその刺戟に堪へ、快く感ずるに至るものであります。

小兒に足に對する我邦古來の習慣、即ち趾の股の無い足袋、紐附き草履と云ふ風は殆ど申分のない方法ですが、漸次靴を用ふるやうになつて參りましたから、以上の注意を申上げて御參考に供した次第であります。兎に角一生涯身體を擔ふ所の足でありますから、小兒の時より十分注意して完全堅固の足を保つやうに致し度いものであります。既に徴兵檢査の頃に至て、軍國の用に立たぬと云ふ様な不具者と成つてからは、もはや致方のないことであります。

家庭衛生

天井と床板

西洋風の家と日本風の家と衛生上孰れが善いかと云ふことは、これは大問題で、一利一害一得一失、又洋館、和屋と云ふてもそれ〴〵構造が種々ありますから一概に論ずることは出來ませんが、兎に角我邦普通の家屋に這入つて天井を仰いで見ると、臥ながら月光を見るような家は論外と致しましても、隨分板の間が隙いて居るのを見受ける、隙いて居るとまでは氣が付かぬでも、實際板の合はせ目は多少隙い

で居ることが多い。天井の下面即ち室に向いて居る方は餘り不潔にもならぬものですから一年に一二回の煤拂でも割合に、清潔になつて居りますが、扨て天井の上となると、縁の下同樣なか〳〵清潔とは申されません、鼠の住居となつて居て、彼等が躍つたり跳ねたり競爭をしたり致す時には、その舞踏の拍子につれて、天華ならで不潔の塵埃が繽紛として室内に落下し、時としては曼珠沙華か何かのやうに鼠糞が降ることさへもある、斯樣な天井は東京の下宿屋風の建物などには頗る多いが、考へれば危險なことであります。傳染病殊に鼠が持前たるべきペストの流行する時などに、斯樣な室内に住で居るのは餘程大膽な話であります。よしペストでなくともチフスや其他の惡疫流行時に、不潔汚穢の場所を漁り廻つた鼠共が歸宅し或は侵入して、お二階の上で遊戲する時に、その下の室で、天井を仰いで口を開いて太平の夢を見て居ることを考へれば、なか〳〵枕を高うしてと云ふ譯にはいかぬことであります。それで只今例に擧ましたやうな天井は無論のことですが、鏡板や杢目の美なる木質を用ひ、格天井などの嚴めしき造りであつても、その上に鼠を寄宿せしむるやうなことでは、矢張賞め難い、衛生上からは、どうしても鼠と同棲することは許されない、鼠は大黑樣の所使姿だなどゝ云ふて、慾の深い愚なことを考いて鼠の侵入するに任せて居るやうな有樣では、とても傳染病を防遏することは出來ない、矢張衛生思想に乏しい未開國民の部類に入れられても致方がないのであります。

次に牀板について考へて見ましても、裏板の隙から折々鼠の尾が見えたり、黑い物が轉げ陷ちたりする室であれば、疊を上げて見ると、床板は大きな節孔があつたり、大掃除の時の便利に、此方の隅に鰹節形の板の破れた處があつたり、疊さへなければ猫が出這入りすべき穴が幾つも有るのが普通ですが、風が強く地面を壓する時には、縁の下の空氣は地中並に地上の黴菌を伴ふて、塵埃と共に遠慮なしに室内

まで舞上ります、濕氣も無論昇ります、尤も地面と牀とは二三尺も隔り、尙ほ疊で以て空氣を遮しますけれども、それでも幾分い此等のものが侵入致します。斯樣な疊の上に、膝から下を折て、其上に全身の重みを載せて、終日腰を屈めて、胸尖だけで淺い呼吸をして、而かも閉籠めた室の內で裁縫などをして居る狀況を描いて見ると、どうしても肺結核、少なくともレウマチス、脚氣位には罹らなければ濟むまいと思はれます。よし牀板は完全に出來て居つて、濕氣や塵埃や黴菌が緣の下から侵入して來ないと致した所で、この疊と云ふものが抑も餘り淸潔なものでない。西洋のように所謂土足で以て室內を蹂躙はしないが、外を歩つて來た足袋でも決して淸潔とは云はれません、幾多の塵芥と無數の黴菌を附著して居ります。特に目立つ程、塵埃が附いて居る時でもなければ、別に掃ひもせずに室內に通り、泥でも附いて居ないかぎりは無論脫ぎません、便所に行つた足で以て矢張疊の上を歩きます。茶席などに於て新しい足袋を穿き代へて室に入るなどは、全く特別のことに屬するのですから、隨分不潔なものが塗り著けられる譯であります。それが漸々疊の目から吸込まれて非常に多量の塵埃が吸收されて居ることは、疊を乾す時に、これを敲けば眼も口も開けぬと云ふ有樣で能く分かります。此の疊の上に坐蒲團を敷いて坐はつて居るのは、これはまあ宜敷いですが、往々食堂並に寢室兼帶の居間及び應接室になりますと、夜は此の疊の上に蒲團を敷いて休み、朝は此の疊の上に直接に御膳を据えて食事を致します、チヤブ臺にしても高さは矢張一尺か一尺五六寸位のものでありませう、斯樣に考へて參りますと、衛生上餘り結構な生活法とは申し難い。

以上は我邦中流以下の家屋に於ける天井と床との缺點のみを擧けたのでありますが、これが又案外中流以上の家室の衛生にも參考となることがあらうかと考へられます。

梨子の效能

西暦一千八百七十年から七十一年にかけて、ロアール戰役の當時、獨逸國ドレスデンの軍醫監ドクトルシル氏は、偶然にも初めて梨子の治療的效能を認めたと云ふことであります。それは此時に往々一日位麵包の缺乏を來すことがあつて困難したが、林檎や梨子で造つた酒は何時でも有つた。そこで馬鈴薯で拵らへた食物と、屠りたての新鮮な羊肉と此酒で以て、都合好く食糧を充たすことが出來たが、一つ困つたことには、これが爲に兵隊の腸の中に暴動が起つた、即ち下痢患者を發するに至つたのであります。所が又偶然にもこれに對する一療法が發見された、而かも極めて單純で此場合他に何も必要のない妙法でありました。それは何かと申しますと、乾梨を食べることで、それは矢張梨や林檎の酒が出來る處には到る處これが有るのです、そこで是を食べさした所が、其止利作用は頗る目覺しいものでありました。後に至つてドクトルシル氏は別に劇しい腸の疾患もなくて、永い間下痢が續く場合に例の乾梨子療法を試みて、何時も見事に奏效したと云ふことであります。

實際梨子には便祕せしむる作用があつて、必ずしも乾梨子ばかりには限らぬ、生の物でも其の傾があつて、下痢が止るのみならず健康の人が食べても多少便祕を來す者であります。此外梨子にはモウ一つ他の作用があります。即ち利尿の作用でありまして、この目的には乾梨子も利くが生の汁の有る方が一層利目があります、尚不熟のものよりも十分に熟した方が良く利きまして、大きな梨子を四つから六つ位ゐ迄食べれば、この作用を起すに十分だと申すことであります。但しこれは斯樣な例もあつたと云ふ事實談に過ぎませんから、腸胃加答兒で下痢の起つた時に、原因も何も顧みずに早速大きな梨を五つも六つも喰べられてはかなひません、これは御注意を願つて置きます。

罨法の應用

熱が有て頭痛のする時に濡手拭や氷嚢を額に當てる腹痛の時に懷爐や蒟蒻の熱いのを布で包んで當る、何れも所謂罨法の一種であります。此の如く罨法の應用は廣いもので、且つ簡短で、其の效能も著しいものがありますから、醫術上には缺くべからざる方法となつて種々の場合に應用されます。從つて家庭療法としては頗に重要の位置を占めて居るものであります。

頸の腫れた時や、肋膜炎の時に能く用ひられます方法は普通プリースニッツ罨法と稱して、湯に浸した布を絞つて患部に貼て丶、其上に油紙を置き、更にフランネルの様な乾燥した布で以て被ふのであります、これは皆その下にある濕布の濕を失はしめぬ爲であるが、此處に生ずる所の濕は、疼痛を緩解する作用があります。然し熱を下げる目的には、濕布を餘り強く絞らず、且つ油紙を除き冷罨法として、度々其布を水或は氷水に浸して、絞つて又た用ひます、頸の動脈を循つて居る血液を冷やせば熱を下げる效があると云ふことは能く分かつた理屈であります。又下腹や下腿に施すことがある、即ち腦から隔つて居る部分に血液を呼んで頭を輕くすると云ふ目的であります、此の方法は心持を安靜にして睡眠を促す效があり、且つ危險もなく又簡單ですから、常に應用して差支がありません。その法は一尺乃至二尺幅のモンパの如き布を取つて其の半分を水に浸して程好く絞り、その部分を腹なり、脚なりに貼て丶其上に乾いて居る方の半分を折り重ねるのであります。或は又下腿の罨法として木綿の靴下を濕して穿き、其の上に毛絲の乾いた靴下を穿くのも一法であります。

小兒が熱を出した時には、先づお母様は、その熱い額の上に冷たい布を貼て丶やつて宜敷い、假令格別の效果は無くとも決して間違つた方法ではない。項部を冷してやるのは更に賢こい方法である、これは

腦に行く血を直接に冷すことになるからであります。それで維也納の水治療法家として有名なウィンテル ニッツは、手足の焮衝には、直接其部分を冷すよりも、其處に行く血管で冷してやつた方が效能かあると申して居ります。尤もこれは多少解剖上の關係を承知して居なければなりませんから、其の適當な部位の選擇は經驗ある醫師に尋ねることゝ致しまして、次に氷嚢を用うる場合になりますと大に注意しなければなりません。この爲にどうかすると害を來すことがある、甚しい場合には壞疽卽ち一部分の死を來すやうなことがあり、又水が漏つて患者の臥牀を濕し、僂麻質斯を起すと云ふやうな危險がありますから、氷嚢は妄りに用うべきものではありません。又醫師から氷嚢を用ひよと言はれた時でも、決してこれを直接に皮膚に貼てゝならぬ、間に手拭を一枚置くとか多少保護しなければなりません。又焮衝ある部分に重みを懸けることは宜敷ありませんから、氷嚢は上から吊り下げて、丁度患部に氷嚢の底がふわりと程好く觸れてるやうでなければなりません。何でもない事でも、それ〳〵の注意すべき事があるもので、それを顧みないと、案外の失策を來すものであります。

それから前に出ましたウィンテルニッツの始めた方法で、幅の狹い濕れた繃帶で、焮衝や火傷の部分を細心注意して卷く方法があります、これは又新鮮な淸潔の水を繃帶の上から滴して冷却作用を續けさせ、創の上の濃汁分泌に對して佳良の影響を及ぼすものでありまして、特に稍ゝ大なる火傷を被むつた場合には此法に依て大に疼痛を緩解するものであります。

耳の痛みはなか〳〵危險の病氣に由て起ることがありますから、必ず醫師の診察治療を乞はなければなりませんが、熱い濕パップ或は反對に氷嚢に依て大に痛の緩解することがあります、然しこれは醫師の處方に依らなければ直接に應用しては危險があります。但し普通の冷罨法は害はない、何時行つても可

い、その方法は水、場合に依つては氷水に浸したガーゼを能く絞つて、耳の後の處に貼てゝ、十分間毎に取換へるのであります、此際耳の内に水が垂れないやうに、何時でも綿を以て耳の孔を塞ぐことが必要であります。氷嚢を用うることになれば、小さな圓い氷嚢を耳の後に置くか、或は耳の周圍を廻つて細長い氷嚢を用うるのですが、氷嚢の下には薄いガーゼを敷くのであります。

次に眼の罨法は如何にするかと申しますと、通常は藥液、例へば二プロセント乃至三プロセントの硼酸水の如きものを大きな茶碗に注ぎ、これに浸した清潔なガーゼを清潔な箸で挾んで、幾度となく眼瞼の上から冷やし又は溫めるのであります。又場合に依つては消毒した綿、ガーゼ、リントの如きものを二寸四方位に切つたものを大きな氷の上に幾枚も載せて置いて、交る〲一枚つゝ眼の上にあてることがあり、或は濕布を眼に貼て、其上に輕い小さな懷爐を置いて溫を持續させることもあります。尙ほ普通の洗眼の間には、プリースニッツの罨法のやうにしても應用致します。兎に角眼科に於ては罨法は非常に大切な療法の一つになつて居りますので、特に皮膚とは異つて、直接に粘膜や眼球そのものに作用するのでありますから、藥液も種々のものを用ひ、その溫度も病氣に依て異りますので、矢張醫師の指圖を要しますが、若し清潔な水を一旦煮沸して、茶碗と箸も煮たものを用ひて、初めに述べたやうに眼を蒸しますのは、何れの眼病にも差支はありません、但し微溫で應用する。冷たいもの或は餘り熱いものは、場合に依て害を招くことがありますから注意しなければなりません。

胸部に施す罨法は、通常氣管支加答兒の烈しい場合、又は肋膜炎の時などには必ず應用されますが、これも矢張プリースニッツ罨法でありまして、胸を卷くだけの紋羽を水或は微溫湯に浸し、輕く絞つて、これを胸に緩く纒ひ、その上に油紙を置き、又その上を乾いた大きな布で以て被ふ、斯うして三四時間目

位に交換するのですが、注意しないと兎角ずれて、困るものであります、特に小兒になりますと、なか〳〵滿足に二時間とは保ちませんから、寧ろ一面は油紙一面は布の薄い坐蒲團の樣なものを作り、その四角に紐をつけて、これで以て胸に貼てた濕布を被ふて置くやうにしたらば可からうと思ひます、さうすれば、ずれもせず又能く濕溫を保つことが出來ます。

心臟の病氣や肺炎などの時には、胸にも氷嚢を用うることがありますけれども、これは是非醫師の處置に俟たなければなりません。

腹部にも罨法を用うることが甚だ多い。凡て罨法は急性の炎症又は出血の時には冷たいものを用ひ、神經を鎭靖せしめ、疼痛を緩解さするとか、又は早く化膿を促すと云ふやうな目的には溫かいものを用ひるのが通則でありますから、盲腸炎とか、腹膜炎とか、吐血、下血などのある場合には冷罨法又は氷罨法を用ひ、單に胃腸の神經症で烈しく腹痛する時などには溫罨法或は熱罨法を用ひて大に效があるものであります。尤も醫師でなければ容易に診察がつかず從つて、その選擇に惑ひますけれども、微溫のものを用うる分には差支ないのでありますから、若し普通腹が痛いと云ふ場合には、西洋手拭を湯に浸し、固く絞つてその痛い處に貼て、それで大に痛が緩くなるものであります。溫罨法の材料としては、懷爐、溫石、鹽又は砂を溫めて袋に入れたもの、或は蒟蒻を熱く煮て布に包んだものも亦頗る妙ですが、矢張濕性のものゝ方が善いのであります。炊立ての熱い飯、又は饂飩粉を鍋で固捏に捏つてそれを布に包んで用うるも宜敷いが、タオールの如きものを二三枚に折重ねて蒸したものを薄い布に包んで用うるが特に善いやうに思はれます。僂痲質斯性の疼痛、胃痙攣などに際しては熱罨法は、誠に良效を奏するものであります。



質疑

問●(一)初期の肺病にはツベルクリン注射は有效とも云ひ又病院に聞きしに諸種の報告及實驗上餘り大なる效果は無之とも云ひますが孰れが確實でありますか。

(二)肺患者一旦全治せば他の諸病後或は産後衰弱の爲め再發すべきものではありませぬか。

(三)近親の緣組は大害を生ずと云ひますが全くですか。

(四)痲疹を未發に防ぐことは出來ませんか。

(五)風邪に罹らざるには冷水摩擦が良きとのことなれども體質に依り餘り良くない人もあるとのことですが夫れ以外の豫防の簡易なることはありませぬか、又風邪の氣味合の時には何とか工夫はありせぬか、御差圖を願ひます。

(六)懷爐にて體を溫むるは害ありませぬか。

(七)記憶力の缺乏は病氣の爲めですか。

(八)スコット乳菓は强壯用として宜しくや又は他にはありませかぬ。

(九)從來一日二三合酒を用ゆる人肺炎に罹り今尙服藥中にて禁酒致し居らるゝが全治の後は五勺乃至合位は日本酒を用ゆる方宜しきものや或はビールが葡萄酒を用ふる方宜しくや。

答●(一)『餘り大なる效果は無之』とは事實です。

(二)肺患者とは、肺結核患者の意でせうが、若しさうなれば眞の全治と云ふことは餘程稀である、通常全治と云ふのは病の進行が停止したと云ふ位の意味ですから、又他の病氣に因て衰弱でもすれば再び結核の症狀を現して來ることは、あり得べき道理です、眞の全治と云ふことがありとすれば、更に傳染しない限りは、無論再發すると云ふこと

はない筈です。

(三)近親の緣組に就ては、異論もありますが、今日の學說に於ては不可としてあります。實際不具者は近親緣組の間に生れた子に多いことも事實です。

(四)麻疹を未發に防ぐは困難です、流行時には小兒を一切外に出さず、登校を禁じ、他の兒童と遊ぶことも禁ずるより他に方法はありません。

(五)感冒の豫防に冷水摩擦よりも簡易な方法と云へば、所謂空氣浴を試みられたら宜しからうと思ひます、卽ち室內で衣服を脫して、初めは五六分間皮膚を直接空氣にあてるのです、夜る就寢前衣服を脫いだ序でも宜敷しい、漸次時間を長くして、後には寒中窓を開けて風に當つても風を引かない迄になると云ふことです、要するに皮膚を溫度の變化に慣らすのです、風邪の味氣合の時に何か良い工夫が無いかとの御尋ですが、これは既に醫療の領分に這入ります、然し鼻風の時は、努めて鼻呼吸をして御覽なさい、氣分が惡るい時は、キニーチ丸を健胃劑として用うる程の量で試みられて宜敷からうと思ひます。

(六)體を暖めるに懷爐を用うるは宜しくないかとの御尋ねですが、懷爐の構造、灰の製法さへ不良のものでなければ差支はありません、然し懷爐を用うるやうな老人や病人には、懷爐よりも湯タンポの方が良からうと思はれます、健康の人には本より無用物です。

(七)記憶力の缺乏は、主として神經衰弱其他の疾患に依つて來りますが、總て注意力を散慢ならしめる樣な事情があれば、記憶は衰へます。

(八)スコット乳菓は惡くありません、其他滋養强壯と云ふやうな目的又は名目で賣つて居るものは無數にあります、然し斯樣なものばかりで特別に人の體が强壯になるものではありませんから、普通の食物を十分取つた上の補です。

(九)何れにしても人の體には、故らアルコール分

の必要はありません、然し御話のやうな御病人なれば、肺炎の恢復期或は全治後に少々位酒類を用ひられても差支はありません。それは良質のものであれば日本酒でもビールでも葡萄酒でも結構です。

雜報



○聖恩無窮

天皇陛下には、去る紀元節の佳辰に際し、桂首相を御前に召させられ、左の勅語を下し給ひ、窮民施藥救療の資として、御内帑金百五十萬圓を賜はるべき旨仰出されたり。

朕惟フニ世局ノ大勢ニ隨ヒ國運ノ伸張ヲ要スルコト方ニ急ニシテ經濟ノ狀況漸ニ革マリ人心動モスレバ其ノ歸向ヲ謬ラムトス政ヲ爲ス者宜ク深ク此ニ鑒ミ倍々憂勤シテ業ヲ勸メ教ヲ敦クシ以テ健全ノ發達ヲ遂ゲシムベシ若夫レ無告ノ窮民ニシテ醫藥給セズ天壽ヲ終フルコト能ハザルハ朕ガ最軫念シテ措カサル所ナリ乃チ施藥救療以テ濟生ノ道ヲ弘メムトス玆ニ内帑ノ金ヲ出タシ其ノ資ニ充テシム卿克ク朕カ意ヲ體シ宜キニ隨ヒ之ヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ賴ル所アラシメムコトヲ期セヨ

同時に渡邊宮相は左の御沙汰を桂首相に傳宣せり

金一百五十萬圓

右最前勅語の思召に據り施藥救療の資として下

賜候旨御沙汰あらせられ候此段傳宣候也

明治四十四年二月十一日

宮内大臣子爵　渡邊千秋

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

○幼兒立退演習

高崎市立幼稚園では、若しも失火などのあつた場合に幼兒を安全に立退かしめる工夫がなければならぬと云ふので、豫め市立甲種商業學校及び高崎中學校に應援を依頼してあると云ふことであるが、萬一の場合には實際能く實行が出來るか否やを確むる爲めに、深井園長は、突然その演習を試みた、即ち二月十八日の午後零時三十分と云ふ時に園長と校長は假かに出火の合圖をした、そこで保姆は小供等にそれぐ合印を附させて庭園に整列したが、これは三分間程で出來た、これと同時に商業學校の職員は、生徒を率ひて六丁餘りの所を驅けつけ、各生徒銘々稚兒を脊負て歩兵第十五聯隊の北門前まで約二丁半の間を僅か四分で逃げ終つたが、都合七分間で以て全部安全に立退かしむることが出來たと云ふ。

○産婆看護婦試驗

昨年十月に東京府で擧行された産婆試驗に合格したものは松村トメ以下七十六名であつたが、同じく十一月に擧行した看護婦試驗に及第したものは平賀タミ以下の四十七名であつたと云ふ。

○青年男女死亡率

倫敦からの報道に依て見ると、昨年の英國に於ける男女死亡數は前年よりも十五萬一千程減少して居る。これは國民の衞生狀態が著しく改善された結果であると云ふて居る、實際英國人は衞生を重じて能く實行する、翻て我邦の統計を見ると餘り成績が善くない、三十八年から四十年までの表は左の如くで、

	一歳以上合計	一歳以上二歳男女	二歳以上三歳男女
三十八年	二三〇、四四六	五三、〇四四	三六、一五九
三十九年	二一四、一四五	四八、七五〇	三〇、〇三六
四十年	二四四、二九八	五一、〇八八	三一、八八八

看護婦

	三歳以上四歳男女	四歳以上五歳男女	五歳以上十歳迄
三十八年	二三、九四二	一四、九七九	三一、四一五
三十九年	二〇、四二一	一三、七二二	二九、七九四
四十年	二〇、七五五	一三、八九三	三一、五四四

	十歳以上十五歳迄	十五歳以上滿二十歳迄	二十歳以上滿廿五歳迄
三十八年	一九、三九一	三五、六〇九	三三、一一八
三十九年	一九、九七三	三五、三〇三	三九、九三四
四十年	二〇、七四八	三五、八四七	三九、九一一

これに依て觀ると十歳以下の兒女の死亡率は僅かに減じたかと思ふと又急に增加したりして一定せず、殊に發育盛りの十歳から二十五歳までの將來有爲の靑年男女死亡率は漸次增加する勢を示して居るは、實に慨嘆の至りである。

○東京市内電氣鐵道事故

東京鐵道株式會社の昨年中にあつた事故を調べて類別して見ると、車輛脫線が百四件、衝突が千件其内電車二十、諸車五百八十六、步行者三百九十四、負傷千四十四件、其の内飛乘に由るものは七十九、飛降に由るものは二百四十四、車前橫過に由るもの四百二十四、其他種々の場合に負傷したものが二百九十五あつた、昨年十二月の調に依ると同會社の軌道延長哩數は百十七哩十九鎖七十九節、一日平均運轉車輛數は七百二七運轉、その運轉總哩數は二百五十一萬八百八十五哩で、一萬哩について衝突〇・四一負傷〇・三五に當つて居る。

○慈惠事業の選奬

内務省の調査の結果選奬さるべき慈惠事業として舉げられたものが百二十四あつたが、去月十一日を以てそれぐ\選奬の名譽に預かつた。その中で醫事衛生に關係あるものとしては左の二十一個である。

事業種類	所在地	奬勵又ハ助成	名稱
施療	北海道小樽區	奬勵	小樽慈惠病院
同	東京市赤坂區	同	赤坂病院
同	同京橋區	同	聖路加病院
同	同神田區	同	三井慈惠病院
同	同芝區	助成	東京慈惠會病院
病兒施療	同麹町區	同	婦人共立育兒會
施療	同下谷區	同	同愛社
同	同府下目黑村	同	慰癈院

施療	同麹町區	助成	大日本私立衛生會
同	京都市	同	施藥院協會
同	大阪東區	同	大阪慈惠會
同	横濱市	同	横濱婦人慈惠會
同	群馬縣前橋市	獎勵	前橋積善會
同其他	愛知縣淺井町	同	森林平
施療	岡山市	助成	岡山博愛會
同	熊本市	同	聖心院
癩患者施療	靜岡縣駿東郡	同	復生病院
同	山梨縣南巨摩郡	同	身延煇敬病院
同	熊本縣飽託郡	同	熊本回春病院
施療其他	同縣八代町	同	博愛院

○宮内省衛生試驗所

宮内省侍醫寮所屬の衛生試驗は、これまで東京帝國大學理化學室を使用し、或は囑託して行つて來たのであるが、この試驗は供御の料を始め、重要の試驗を行ふのであるから、一層嚴重の研究を爲す必要があるので、新に衛生試驗所を宮城内舊本丸跡に設け、これと同時に大手門内の從來の消毒所も改築する計劃で、この豫算は何れも宮内省今年度の臨時費として帝室經濟會議の承諾を經て、御裁可を得たから、遠からずその工事に着手することになつたと云ふことである。

○種痘成績

昨年第一回種痘者の總數は、第一期公種痘が二萬五千八百八十七人、私種痘が一萬八千七百六十五人、第二期の公種痘者は一萬三千八百三人、私種痘のものが五千九百六十七人であつた。右の内で第一期のものゝ成績は、公種痘の方で善感人員二萬五千二百十七人卽ち種痘者百に對する九八・一の割合で不善感は四百七十六人卽ち百に對して一・八五である、この外に檢査の濟まないものが百九十四人ある、又私種痘の方に於ては善感一萬七千八百七人、百に對し九四・八九の割合となり、不善感者は九百五十八人卽ち百に對し五・一一の比であつた、次に第二期に於ける成績は、公種痘にあつては善感の人員三千八百二十五人卽ち種痘者百に對する比例は二八・一七である、又不善感人員は九千七百五十四人で種痘者百に對し七一・八三の比例である、此外檢査未了

のもの二百二十四人、私種痘の方では善感人員一千九百四十三人卽ち種痘者百に對する比例は三二・五六である、又不善感人員は四千二十四人で、種痘者百に對する比例は六七・四四となる。

廣告

○婦人衞生會總會及紀念祝賀會

私立大日本婦人衞生會は、本月十八日午後一時より小石川區砲兵工廠の內なる後樂園に春季懇親會をかね創立二十五年紀念祝賀會を開けり。

役員とある人々の痛く心を惱ましたる昨夜の雨風空さりげなく晴れ渡りて、定めなき此頃の空を今日のみは怪しきばかり春の日陰のどかに塵も立たず。晝やゝ過ぐる頃より會員の打連れ立ちて集ひ來る程に、これの會の總裁とおほまします東伏見宮妃殿下には宮岡御用掛、小野家令を從へさせられ、御馬車いと緩やかに御著あり、砲兵工廠の提理を始め役員一同迎へ參らせたるが、濱尾副會長の御先導に、唐門より綠深き一筋路を涵德亭まで玉步を移させ給ひ、暫し御休憩の上、新築貴賓館の式場に臨ませられ、會衆一同の敬禮に御會釋、御著座あり、やがて副會長濱尾男爵夫人は開會の辭を述べ、總裁宮妃殿下には畏こくも陛下御名代として程なく御渡英遊ばさるべきを、特に御臺臨を忝うしたるを謝し參らせ、會員に對しては創立二十五年の記念祝賀に際し斯くも多數の出席者を得てこの盛會を見るに至れるを悅ぶ旨の挨拶あり尙ほ會長鍋島侯爵夫人は止むを得ざる事のありて臨場せられざる旨を報じ、次で幹事高木夫人より簡略に會計の報告あり、續て幹事鳩山夫人は、婦人衞生會創立の始めより今日に至るまでの來歷、其間に於ける主なる會の事業より、今日あるに至らしむるに與つて力ある、人々の功勞を稱揚し總裁宮妃殿下の本會に對する厚き御思召を感謝し、更に衞生思想普及の要を說き、會の發展に向て各益々力を盡されむことを希望し、終に總裁宮

妃殿下には陛下御名代として英國皇帝戴冠式の大典に御列席あらせらるゝべきを祝し且つ會員一同に代りて殿下の御健康を祝し御送別の辭を申上げ、それより本會の特別贊成員たり、又功勞者たる宮本仲氏は當日の來賓として本會の趣旨を贊し、國家衛生と個人衛生の關係就中家屋に於ける婦人の衛生思想の如何に必要なるかを説き、本會員の一層奮勵せられむことを希望する旨を述べられたり、これにて式を終へ、直ちに餘興に移り、豐竹呂昇中將姫雪責の一段を語り出でたるに、流石は目下の名打てとて滿場暫くはしめやかに、只微妙の聲調と撥音の冴ゆるが中に、聽衆の忍びやかなる唏噓の音さへ打交りて、何れも感動淺からず見えたるが、高貴の御前とて、破るゝばかりの拍手喝采の聲なくて止みしは、聲あるに勝りて榮譽あることゝいはんか、斯くて殿下には御退場、御休憩所に入らせられたるが、程ありて後ち濱尾、三浦等の諸役員を御供に園內御逍遙の上御機嫌いと麗はしく御歸邸あらせられたり。

當日の來會者は六百に餘り、尙ほ來賓としては土方伯を初め林、二木等の醫學博士其他の諸名氏、數十名あり、涵德亭に於て茶菓を饗し、凡ての會員には鮨折、菓子等を頒かち、又特に記念の爲に製せる總裁妃殿下及新舊會長副會長の肖像を現はせる二枚一組の繪端書を呈したるが、隨意に園內を逍遙し、全く散會せるは五時過なりき。

因に當日式場に於ける鳩山夫人の演説の大要は左の如くなりき。

本日は私立大日本婦人衛生會創立二十五年の紀念を兼ね總會を催しました處皆樣御多用にも拘らず斯く多勢に御出席下さいまして誠に難有感謝いたします本會も今年は創立二十五年に相成まして現今知名の婦人會中最も永く續き居りました事は偏に皆樣の御援助の然らしむる事と役員一同厚く御禮を申上ます就中二十年創立の際には加藤弘之氏(現今男爵)同夫人南部隈子氏(現今男爵夫人)村岡久野氏細川都子氏萩野吟子氏松浦里子氏等發起創立に於て殊に御盡力

下さいまして其道の方々に御依頼下さいました爲めに宮本仲氏加藤照麿氏長與專齋氏其他諸專門家の多大なる賛助を得衣食住の事より育兒看護など身に近き衛生の事共を講究し之れが雜誌をも編輯して會員に頒ち家庭衛生に於ける婦人の責任を知らしむるに努められし事等其效與に尠なからぬ事と常に感謝いたして居ります

本會創立以來今日迄經過の大略を申上げれば二十年創立翌二十一年一月加藤鈴子氏副會長となられ南部村岡細川秋野松浦の諸婦人幹事を勤められ同年三月二十四日第一總會に於て濱尾作子氏（其後男爵夫人）松浦氏に代りて幹事となられました同年九月一日第二總會に於て加藤鈴子氏會長となり南部隈子氏副會長となられました

二十五年小松若宮即ち現今の東伏見宮の御息所を總裁に頂くの光榮を得たした同二十六年子爵夫人土方亀子氏（後伯爵夫人）會長となり濱尾作子氏副會長となられこれ迄時々又は隔月に發行せし雜誌を毎月發行する事に致しました

同二十八年子爵夫人仁禮壽賀子氏（現今子爵母堂）會長となられ六年重任せらし後同三十四年鍋島侯爵夫人榮子氏會長となり爾後會長副會長重任今日に至りました此間會の事業は平素は毎月一回例會を開き衛生に關する專門家の講義を聽き之を雜誌に掲載する外毎年一回又は二回總會を開きました或る時は芝離宮新宿御園を拜借し又時ありては總裁の君様の特別なる御思召に依り宮御邸に催し非常に御丁寧なる御取り扱ひを蒙り會員一同感謝に堪へざる事も度々で御座いました又會長の御厚意に依り會長邸に開き色々御世話になりましたり又後樂園植物園等にも催しました此總會は專ら會員の懇親を計るを旨と致して居りました

又臨時事業の重なるものは

二十三年府下虎列剌病蔓延の際には役員發起して看護人を避病院へ派出し兼ねて患者需用品をも寄贈致しました

二十四年附屬保育園を開設し自宅に於て保育しかぬる事情ある者よりその嬰兒を委托せしめ之れが鞠育の方法を講せしが時代の要求なき爲め廢園の止むなきに了りました

同年濃尾の大地震慘狀を極めし際物品金員を義捐致しました

二十七八年日清の戰役に際しては會員手製の絨服下著數千枚其他の物品金員を恤兵部に獻納いたしました

二十九年三陸大海嘯ありし際は義捐金を醵出致しました

三十七八年日露の戰役起るや會員擧つて或は恤兵に或は出征軍人家族慰問に全力を盡しました

此等の臨時事業の結果或は東京府より木杯謝狀を贈られ或は賞勳局より銀杯賞狀を下附せられました

又四十三年日英博覽會に於て金賞を受領致しました

又千葉新潟山形宇都宮茨城高崎米澤の支會も隨時設立せられました

本會の爲め現今御盡力なされつゝある役員專門家以外に本會に殊に功勞ありし方々の重なる方には前申述べた通り

男爵加藤弘之氏御夫婦加藤照麿氏御夫婦男爵夫人南部隈子氏故伯爵夫人土方龜子氏仁禮子爵母堂男爵母堂長與園子氏男爵母堂西升子氏男爵夫人西靜子氏宮本仲氏丹波敬三氏大澤謙二氏緒方正規氏石崎つる子氏男爵高崎正風氏三宅秀氏榊俶氏榊幸子氏北澤信子氏馬渡玉子氏等で御座ます、其他現今御盡力なされつゝある役員及び專門家の方々の芳名は爰に枚擧する能はざる程で御座います

回顧すれば子爵夫人土方龜子氏會長となり濱尾作子氏副會長たりし當時私は一日他用にて濱尾氏を訪問致しました談偶ゝ婦人衞生會の事に渉り其際夫君新氏も其席にあられ婦人衞生會益發展の要あれば是非盡力すべき事を囑托せらる私は御兩所の御熱誠に感服し續きて高木鎌子氏を訪ひ共に／＼濱尾氏を助けて此會の發展に盡されん事を願ひしに直に御快

諾を得ました爾來殆ど十有九年此間決して短かしとせず而して男爵夫人濱尾副會長には汲々として努めらるゝ事一日の如く殆ど會の全責任を雙肩に荷われ高木氏又能く會計の任に當られ岡田氏其他の方々は講師御依賴其他に御斡旋せらる而して自ら省みるに私は臨時の出來事の起らざる限りたゞ開會の日出席するの外殆ど何事をも爲さゞる有樣にて經過せしは慚愧の情に堪へません茲に二十五年記念に際し幹事の職務として役員を代表し一言述ぶべき旨役員諸氏より申し出さる自ら其任に非ずと再三辭して聽かれません、既に自ら爲すなきを愧て措かざる際なれば之をも强て辭するに忍びず皆樣の御迷惑をも憚らず敢て一言蕪言を呈します

扨世が段々文明に赴くに從ひ人命の貴きを知る次第にて往昔文明の進まざる時代には人更に衞生の事に心を留めず婦人衞生會など思ひもよらぬ有樣でありました勿論往昔と雖も孔子は「身體髮膚之れを父母に受く敢て毀傷せさるは孝の始めなり」と申され又曾子疾ある時門弟子を召して「予が足を啓け予が手を啓け詩に云ふ戰々兢々深淵に臨むが如く薄冰を履むが如しと今にして後吾れ免がるゝを知る小子」と云はれましたが斯る考は孔子曾子の如き絕倫の聖賢とも云はるゝ人のみにして一般の人は君とか父母とか夫とかの身體は大切にすべきを知るも自身又は自身の子供は自らの氣儘に不養生するも敢て恥とも罪ともせざる風がありました卽ち忠僕の例として或る僕が其主人より貰ひし衣服を大切にし之を汚ごすは其身を傷くるよりも大なる罪とし寒天に途上遽かに烈しき雨雪に遭遇すれば故らに其衣服を脫し裸體となり其衣服を大切にするとか又親孝行の手本として親が寒中鯉を欲すれば自分は冰の上に臥し冰を解かし以て親の望を遂するとかを以て美談と致して居りました斯る不養生をして熱病にでもならば大なる不忠大なる不孝なる事を悟らざるは卽ち文明の進まざるを證明する次第で御座います

往昔は人命は生れし時旣に定まるなど云ひ傳へ何時

死するも天命施すべき道なき如く思ひ居りましたが
焉ぞ知らん文明の進むに從ひ衞生の道開け現今にては人は養生の何時に依り隨分長壽を保ち得る事を發見し所謂百二十五歳の人命も全く無稽の言ならぬと聞きます然るに世人の多數は不注意不養生の結果天壽を全ふせずして死するものなりと知り得たる今日は人々出來得る限り衞生の道を講じ尊き生命を自ら短縮せぬ樣に心掛くべきと存じます殊に此程御內帑の金百五十萬圓御下賜の際賜はりたる優渥なる勅語を拜するに「若し夫れ無告の窮民醫藥給せず天壽を終ふること能はざるは朕が最も軫念して措かざる所なり」とあります皆樣は如何御考へ遊ばしますか私は身體を毀傷せざるは孝の始めのみならず忠の始めなる事を確信致します左すれば吾人は各自衞生の道を研究し長上の方々の身體を大切にするは勿論自身及び自身の子供の身體の保護も、十分の注意適宜の手段を取る事は吾人の義務であると考へます又ペスト其他の流行病などを蔓延せしむるは國民の衞生思想發達をさる事の證明にして從つて文明の進まざる狀態を世界に知らしむる所以と存じます此の故に本會の如き有益なる會の趣旨を益々廣く普及し益々多くの方々に毎回御出席專門家の有益なる御講義を御聽きにならむ事を切望いたすので御座いますがこれ迄は學術の講義のみで御座いましたから皆樣幾分の御退屈を惹き起す感も御座いましたから今後はピアノの如き音樂をも加へ幾分御慰みをも計る積りで御座いますから何卒滿場の方々に御友人御知己を御勸誘御入會の樣御取計ひを偏に希上ますこれ決して本會の爲めのみにあらず我國の文明を高むる上に於て特に切望して止まぬ次第で御座います

茲に特に謹みて一言申上たき事は本會總裁東伏見宮御息所殿下には近々陛下の御名代として大英國皇帝の戴冠式に御臨場の爲め御渡英ならせらるゝとの趣を承ります眞に御名譽の事にて從つて本會の大なる光榮と慶賀に堪へません申上るも無き事ながら長途の御旅行御自愛專一に遊ばされ此大任を遂げ

させ給ひ御健全にて御歸京の時再び此處に於て麗しきを歡迎し奉つるの光榮を得んことを今より只管希望して止まぬ次第で御座います本日は特に御手厚き御土產を頂きまして會員一同誠に難有謹で御禮を申上ます拙なき事を申上永〻御淸聽を煩せし段幾重にも拜謝致します

明治四十四年三月十八日

總會並春季懇親會寄附者尊名

一金五拾圓　總裁東伏見宮妃殿下
一金拾圓　鍋島榮子
一金拾圓　濱尾作子
一金拾圓　仁禮壽賀子
一金拾圓　岩下ゆか子
一金七圓　鳩山春子
一金五圓　岡田德子
一金五圓　三浦敎子
一金五圓　高木錄子
一金五圓　高木富子
一金五圓　西升子
一金五圓　羽田三緒子
一金五圓　宮下映子
一金五圓　山口貞子
一金五圓　山本多穗子
一金參圓　小川孝子
一金參圓　三宅藤子
一金參圓　宮本樂子
一金參圓　長谷川仲子
一金參圓　緒方悅子
一金參圓　濱田拾子
一金參圓　田村きよ子
一金參圓　關邦子
一金參圓　弘田益子
一金參圓　片山かめ子

○本會入會者

○田村きよ子紹介
●日本橋區元大阪町十山村方　通常會員　橋田あい子
●京橋區月島通七ノ七　通常會員　山口さだ子
●事務所申込
●小石川區音羽養生所內　通常會員　岡野きせ子
○濱尾作子紹介

●本郷區元町二ノ四八　特別會員　秋間ため子

●去月入會者中齋藤勝子を通常會員とせるは特別會員の誤につき訂正す

○山形支會入會者

○堀口富子紹介

●　通常會員　佐々木うめ子

○新潟支會入會者

○中村しげ子紹介

●　通常會員　廣瀬いつ子

●　通常會員　中村すゞ子

●　通常會員　篠原ちか子

●　通常會員　中村たみ子

○吉村きよ子紹介

●　特別會員　太田せん子

○宮本樂子紹介

●神田區駿河臺北甲賀町三　通常會員　山本靜子

○田村きよ子紹介

●淺草區小島町四九　特別會員　浦部鈴子

○事務所申込

●本郷區元町二ノ四九　通常會員　宮尾清子

○横井忠玉氏紹介

●靜岡縣駿東郡板妻廠舍主務事務所　通常會員　山之内しか子

○轉居

●鹿兒島市高麗町一四七へ　玉利のぶ子

●芝區白金臺町二ノ六八へ　藤田さだ子

●本郷區本郷本富士町へ　前川朗子

●秋田縣鹿角郡小坂鑛山花園町木村庄太郎方へ　中津山きよ子

●麻布區木村町一六二へ　勅使河原君恵子

●前橋市清王寺町五二一へ　匂坂菊子

新案特許 一〇三六二號 衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを装置せるにより舊式のものゝ如く硬からず觸ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髪の傳染病を媒介する憂なし

◉丸髷 金十五錢より 金七十五錢迄

◉島田髷 金三十錢より 金壹圓五十錢迄

◉銀杏髷 金二十錢より 金六十錢迄

◉送料各八錢

◉諸かもじ製造販賣 東京市神田區豐島町十七番地【振替貯金口座一八一八八番】 田中金三郎

◉小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹｜本郷三丁目 兼康｜浅草駒形 百助｜浅草駒形 紅勘｜神田區須田町 三井屋｜日本橋通二丁目 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊　定價金貳拾錢　郵稅壹錢
三冊（三ケ月分）　前金郵稅共　金四拾五錢
十二冊（一ケ年分）　前金郵稅共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行　一行二十三字
一頁金三圓　半頁一圓五拾錢
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行十五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

明治四十四年三月十七日印刷
明治四十四年三月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　非司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　个非甚太郎
印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

發行所　私立大日本婦人衛生會事務所
東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地

賣捌所

東京本郷區龍岡町　吐鳳堂
東京市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　亘明堂
同市本鄉區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本鄉區本富士町　盛春堂
名古屋市本町三丁目　丸善書店